

工 事 設 計 書 等

工事設計書等のダウンロードにあたって

知り得た情報は、関東地方整備局以外の者の権利を含む場合があるため、ダウンロードを行った個人又は法人における1次利用に限るものとし、有償無償に関わらず「第三者への提供行為※」を行わないでください。

※「他の第三者への提供行為」・・・PDFデータのまま、あるいは、紙に出力して等の手段に関わらず、ダウンロードを行った個人又は法人以外の他者による2次利用につながる一切の行為を指します。

国土交通省 関東地方整備局
京浜河川事務所

鏡

1. 工事名

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事
工事地名	東京都大田区東六郷地先

2. 工事内容

1) 発注年月	令和 8年 1月	1 2) 設 計 年 月	令和 8年 3月
2) 事務所名	京浜河川事務所 工務課	1 3) 機械損料一括補正	0 労務費一括割増 0%
3) 工事番号	2025030023	1 4) 単価適用年月	2026年 3月
4) 契約区分	単年度（繰越を含む）の分任官	1 5) 歩掛適用年月	2026年 3月
5) 変更回数	0回	1 6) 前請負工事費	0
6) 主 工 種	海岸工事	1 7) 前請負代金額	0
7) 工 事 量		1 8) 調 整 区 分	0
8) 工 期	292日間 自 令和 8年 5月11日 (当初) 至 令和 9年 2月26日 (0回変更) 至 年 月 日	1 9) 共通仮設費対象額	
9) 施 工 県	東京都	2 0) 現場管理費対象額	
1 0) 地 区	東京 1 7 区	2 1) 一般管理費等対象額	
1 1) 河川・路線	多摩川	2 2) 処 分 費 等	1, 128, 000
		2 3) 公 告 日	令和 8年 1月29日
		2 4) 入 札 締 切 日	年 月 日

3. 予算科目

1) 予算科目： 河川等災害関連事業費 河川整備事業費	2) 目： 河川等災害関連事業費 河川改修費	3) 目の細分： 工事費 工事費	4) 事業名： 多摩川 多摩川
-----------------------------------	------------------------------	------------------------	-----------------------

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸	数量増減	金額増減
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額				摘要
堤防・護岸		式	1		124,726,610				
海岸土工		式	1		103,291,928				
掘削工 (ICT)		式	1		22,570,428				
掘削 (ICT) 平均潮位以上	土砂 オープンカット 障害無し 5,000m3以上10,000m3未満	m3	5,000	370.9	1,854,500				単-1号
掘削 (ICT) 平均潮位以下	土砂 オープンカット 障害有り 5,000m3以上10,000m3未満	m3	3,800	597.7	2,271,260				単-2号
土砂等運搬 施工箇所～場内仮置場	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式	1		2,382,380				内-1号
土砂等運搬 場内仮置場～曝気ヤード	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式	1		5,075,044				内-2号
土砂等運搬 曝気ヤード～土砂分別	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式	1		1,971,856				内-3号
土砂等運搬 曝気ヤード～船着場	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式	1		3,462,448				内-4号
整地 曝気ヤード	残土受入れ地での処理	式	1		1,166,880				内-5号
積込 (ルース)	土砂 土量50,000m3未満	式	1		4,386,060				内-6号
土砂分別・運搬工		式	1		55,630,860				

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土砂分別			m3	5,000	4,472	22,360,000			単-3号
土砂分別事前改良			式	1		11,474,000			内-7号
土砂等運搬 土砂分別～関戸SY		土砂(岩塊・玉石混り土含む)	式	1		18,958,860			内-8号
整地		残土受入れ地での処理	式	1		663,000			内-9号
積込(ルース)		土砂 土量50,000m3未満	式	1		1,239,000			内-10号
廃材処分		混合廃棄物	m3	36	26,000	936,000			単-4号
作業船運転工			式	1		25,090,640			
積込(ルース)		土砂 土量50,000m3未満	式	1		941,640			内-11号
土運搬船運転		300m3積 開閉式	式	1		19,665,000			内-12号
土運搬補助船運転		引船 D500PS型 40GT	式	1		4,484,000			内-13号
構造物撤去工			式	1		186,882			
防護柵撤去工			式	1		186,250			

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
車止め撤去			m	5	37,250	186,250			単-5号
運搬処理工			式	1		632			
現場発生品運搬		車止め	t	0.04	15,800	632			単-6号
付帯道路工			式	1		41,650			
路側防護柵工			式	1		41,650			
ガードレール		Gr-C-3B独立基礎 支給品	m	6	6,731	40,386			単-7号
支給品運搬		Gr-C-3B	t	0.08	15,800	1,264			単-8号
仮設工			式	1		21,206,150			
工事用道路工			式	1		4,088,310			
敷鉄板		22×1,524×6,096 (mm) 設置・撤去	式	1		3,427,751			内-14号
土木シート			式	1		660,559			内-15号
汚濁防止工			式	1		8,188,400			

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
汚濁防止フェンス	設置・撤去	式	1		8,188,400			内-16号	
交通管理工		式	1		8,929,440				
交通誘導警備員		式	1		8,929,440			内-17号	
直接工事費		式	1		124,726,610				
共通仮設費		式	1		35,493,252				
共通仮設費		式	1		25,246,252				
運搬費		式	1		13,127,280				
土砂分別機分解組立輸送費		式	1		5,957,000			内-18号	
仮設材運搬費		式	1		6,301,680			内-19号	
作業船等えい航費		式	1		868,600			内-20号	
準備費		式	1		460,800				
木根等処分費		式	1		460,800			内-21号	

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
安全費		式	1		7,180,172				
警戒船		式	1		3,598,960			内-22号	
安全施設費		式	1		3,581,212			内-23号	
技術管理費		式	1		1,742,000				
土質等試験費		式	1		1,144,000			内-24号	
ｼｽﾃﾑ初期費(ICT)		式	1		598,000			内-25号	
現場環境改善費（率計上）		式	1		2,736,000				
共通仮設費（率計上）		式	1		10,247,000				
純工事費		式	1		160,219,862				
現場管理費		式	1		39,387,000				
工事原価		式	1		199,606,862				
一般管理費等		式	1		31,053,138				

設計内訳書

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事	(当 初)				事業区分	海岸整備		
						工事区分	堤防・護岸		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
工事価格			式	1		230,660,000			
消費税相当額			式	1		23,066,000			
工事費計			式	1		253,726,000			

一式当たり内訳書

第 1号内訳書

土砂等運搬

施工箇所～場内仮置場

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

第 2号内訳書

土砂等運搬

場内仮置場～曝気ヤード

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

第 3号内訳書

土砂等運搬

曝気ヤード³～土砂分別

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1.000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

第 4号内訳書 土砂等運搬
曝気ヤード～船着場

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土砂等運搬	標準 バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3) 土砂(岩塊・玉石混り土含む) 有り 3.5km以下	m 3	3,820	906.4	3,462,448			
合 計					3,462,448			

一式当たり内訳書

第 5号内訳書 整地
曝気ヤード

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
整地	残土受入れ地での処理	m 3	8,800	132.6	1,166,880			
合 計					1,166,880			

一式当たり内訳書

第 6号内訳書
積込(ルーズ)

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
積込 (ルーズ)	土砂 土量50,000m3未満	m 3	17,700	247.8	4,386,060			
合 計					4,386,060			

一式当たり内訳書

土砂分別事前改良
第 7号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土砂分別事前改良	吸水性泥土改質材添加量60kg/m3	m 3	5,000	1,151	5,755,000			
吸水性泥土改質材	バラ材	t	301	19,000	5,719,000			
合 計					11,474,000			

一式当たり内訳書

第 8号内訳書

土砂等運搬

土砂分別～関戸SY

單価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

第 9号内訳書 整地

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
整地	残土受入れ地での処理	m 3	5, 000	132. 6	663, 000			
合 計					663, 000			

一式当たり内訳書

第 10号内訳書
積込(ルーズ)

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
積込 (ルーズ)	土砂 土量50,000m3未満	m 3	5,000	247.8	1,239,000			
合 計					1,239,000			

一式当たり内訳書

第 11号内訳書
積込(ルーズ)

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
積込 (ルーズ)	土砂 土量50,000m3未満	m 3	3,800	247.8	941,640			
合 計					941,640			

一式当たり内訳書

第 12号内訳書
土運搬船運転

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土運搬船運転工	開閉式 300m3積 日当り施工量200m3程度	日	19	1,035,000	19,665,000			
合 計					19,665,000			

一式当たり内訳書

土運搬補助船運転
第 13号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土運船補助船運転	補助船 D500PS型 40GT (引船同等規格)	日	19	236,000	4,484,000			
合 計					4,484,000			

一式当たり内訳書

敷鉄板
第 14号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【掘削箇所】								
敷鉄板設置・撤去	設置・撤去	m 2	297	459. 7	136, 530			
敷鉄板賃料	22×1, 524×6, 096 (mm) 無 51日 無 有	枚	32	5, 486	175, 552			
【曝気・分別ヤード】								
敷鉄板設置・撤去	設置・撤去	m 2	1, 022	459. 7	469, 813			
敷鉄板賃料	22×1, 524×6, 096 (mm) 無 51日 無 有	枚	110	5, 486	603, 460			
【河川敷横断道路】								
敷鉄板設置・撤去	設置・撤去	m 2	1, 031	459. 7	473, 950			
敷鉄板賃料	22×1, 524×6, 096 (mm) 無 88日 無 有	枚	111	8, 668	962, 148			
【多摩川二丁目緊急船着場】								
敷鉄板設置・撤去	設置・撤去	m 2	604	459. 7	277, 658			
敷鉄板賃料	22×1, 524×6, 096 (mm) 無 46日 無 有	枚	65	5, 056	328, 640			

一式当たり内訳書

敷鉄板
第 14号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
合 計					3,427,751			

一式当たり内訳書

土木シート
第 15号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【工事費】								
土木シート設置		m 2	1,031	27.54	28,393			
土木シート撤去		m 2	1,031	186	191,766			
【材料費】								
土木シート	ナイロン・ポリエステル系不織布0.18～0.25mm	m 2	1,031	400	412,400			
【処分費】								
10tコンテナ車(20～30m3)	片道概ね25km	m 3	2	2,000	4,000			
処分費 (m 3)		m 3	2	12,000	24,000			
合 計					660,559			

一式当たり内訳書

汚濁防止フェンス
第 16号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
汚濁防止フェンス	設置・撤去	m	440	18,610	8,188,400			
合 計					8,188,400			

一式当たり内訳書

交通誘導警備員
第 17号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
交通誘導警備員B		人日	468	19,080	8,929,440			
合 計					8,929,440			

一式当たり内訳書

土砂分別機分解組立輸送費
第 18号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
土砂分別機分解組立輸送費 回転式破碎混合機	φ1500(1材1添加1ふるい仕様) (キャリブレーション含む)	式	1		5,957,000			
合 計					5,957,000			

一式当たり内訳書

假設材運搬費

第 19号内訳書

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

作業船等えい航費
第 20号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
えい航費	土運船（開閉式）（引船・土運船）	回	2	434,300	868,600			
合 計					868,600			

一式当たり内訳書

木根等処分費

第 21号内訳書

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

警戒船

第 22号内訳書

單僱使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1.000-00-00-2-0

[illegible]

一式当たり内訳書

安全施設費

第 23号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【工事費】								
単管バリケード 組立・設置		m	740	551.8	408,332			
高輝度LED点滅灯 設置	W90mm×H195mm	個	284	219.1	62,224			
工事用取付ホルダー 設置	F型ホルダー JS-F	台	284	375.7	106,698			
ノンスリップマグシート設置	500×150	枚	20	626.2	12,524			
単管バリケード 集積・撤去		m	740	551.8	408,332			
高輝度LED点滅灯 撤去	W90mm×H195mm	個	284	125.2	35,556			
工事用取付ホルダー 撤去	F型ホルダー JS-F	台	284	219.1	62,224			
ノンスリップマグシート撤去	500×150	枚	20	450.8	9,016			
【材料費（河川敷横断道路）】								
単管パイプ（賃料）	4.0m/1.8mm厚（足場使用不可）87日	本	242	254	61,468			
単管バリケード（賃料）	W460mm×H730mm×T40mm 87日	台	242	1,580	382,360			

一式当たり内訳書

安全施設費

第 23号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
高輝度LED点滅灯（賃料）	W90mm×H195mm 87日	個	242	6,200	1,500,400			
工事灯取付ホルダー（賃料）	F型ホルダー JS-F 87日	台	242	361	87,362			
ノンスリップマグシート		枚	20	3,000	60,000			
【材料費（船着場）】								
単管パイプ（賃料）	4.0m/1.8mm厚(足場使用不可) 46日	本	42	172	7,224			
単管バリケード（賃料）	W460mm×H730mm×T40mm 46日	台	42	1,210	50,820			
高輝度LED点滅灯（賃料）	W90mm×H195mm 46日	個	42	3,760	157,920			
工事灯取付ホルダー（賃料）	F型ホルダー JS-F 46日	台	42	238	9,996			
【材料費（碎石道路）】								
単管パイプ（賃料）	4.0m/1.8mm厚(足場使用不可) 88日	本	86	256	22,016			
単管バリケード（賃料）	W460mm×H730mm×T40mm 88日	台	86	1,590	136,740			
合 計					3,581,212			

一式当たり内訳書

土質等試験費

第 24号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
底質分析	試験費 溶出33項目、含有量3項目、その他1項目	検体	2	278,000	556,000			
底質分析	試験費 溶出試験 (ダイキシン類)	検体	2	131,000	262,000			
底質分析	試験費 含有量試験 (ダイキシン類)	検体	2	123,000	246,000			
放射性物質濃度	試験費 セシウム-134及びセシウム-137	検体	2	40,000	80,000			
合 計					1,144,000			

一式当たり内訳書

第 25号内訳書

システム初期費 (ICT)

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
システム初期費 (I C T)	バックホ	式	1		598, 000			
合 計					598, 000			

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1.000-00-00-2-0
単-1号	掘削(ICT) 平均潮位以上	土砂 オープンカット 障害無し 5,000m3以上10,000m3未満	単位	m3	数量	1	単価 370.9
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
掘削 (I C T)		土砂 オープンカット 無し 5,000m3以上10,000m3未満	m 3	1	370.9	370.9	
計						370.9	
単価						370.9	円/m3

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1.000-00-00-2-0
単-2号	掘削(ICT) 平均潮位以下	土砂 オープンカット 障害有り 5,000m3以上10,000m3未満	単位	m3	数量	1	単価 597.7
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
掘削 (I C T)		土砂 オープンカット 有り 5,000m3以上10,000m3未満	m 3	1	597.7	597.7	
計						597.7	
単価						597.7	円/m3

1 次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単-3号	土砂分別		単位	m3	数量	10	単価	4,472
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【工事費】								
土砂分別機運転		回転式破砕混合機 φ1500(1材1添加1ふるい仕様)	m 3	10	3,522	35,220		
【材料費】								
吸水性泥土改質材		バラ材	t	0.5	19,000	9,500		
計						44,720		
単価						4,472	円/m3	

1 次単価表

1 次単価表						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数		2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0	
単一4号	廃材処分	混合廃棄物	単位	m3	数量	1	単価	26, 000	
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要		
10tコンテナ車(20～30m3)		片道概ね25km	m 3	1	2, 000	2, 000			
処分費 (m 3)			m 3	1	24, 000	24, 000			
計						26, 000			
単価						26, 000	円／m3		

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0	
単-5号	車止め撤去		単位	m	数量	1	単価	37, 250
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
車止め撤去			m	1	37, 250	37, 250		
計						37, 250		
単価						37, 250	円／m	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単一6号	現場発生産品運搬	車止め	単位	t	数量	1	単価	15,800
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	現場発生産品及び支給品運搬	トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、吊能力2.9t 有り 9.0km以下	t	1	5,427	5,427		
	現場発生産品及び支給品積込み・荷卸し	トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、吊能力2.9t	t	1	10,370	10,370		
	計					15,797		
	単価					15,800	円／t	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単-7号	ガードレール	Gr-C-3B独立基礎 支給品	単位	m	数量	6. 2	単価	6, 731
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
ガードレール設置 (材料費を除く手間のみ)		Gr-C-3B L=6. 2m	m	6. 2	5, 179	32, 109. 8		
コンクリート		小型構造物 人力打設 各種 一般養生 無し 全ての費用	m 3	0. 05	41, 500	2, 075		
型枠		一般型枠 小型構造物	m 2	0. 72	10, 160	7, 315. 2		
基礎碎石		7. 5cm以下 再生クラッシュラン 40～0 全ての費用	m 2	0. 18	1, 285	231. 3		
計						41, 731. 3		
単価						6, 731	円/m	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単-8号	支給品運搬	Gr-C-3B	単位	t	数量	1	単価	15,800
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	現場発生品及び支給品運搬	トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、吊能力2.9t 有り 9.0km以下	t	1	5,427	5,427		
	現場発生品及び支給品積込み・荷卸し	トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、吊能力2.9t	t	1	10,370	10,370		
	計					15,797		
	単価					15,800	円／t	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	土砂運搬工（不整地運搬車による運搬）	5, 000m3以上 バックホウ山積0. 8m3（平積0. 6m3） 50m以下	単位	m 3	数量	100	単価	269. 5
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	不整地運搬車運転	5, 000m3以上	日	0. 265	101, 700	26, 950		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					26, 950		
	単価					269. 5	円／m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土砂分別機運転	回転式破碎混合機 φ1500(1材1添加1ふるい仕様)	単位	m ³	数量	100	単価	3,522
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0.41	35,088	14,386		
	特殊作業員		人	0.82	31,314	25,677		
	普通作業員		人	0.82	27,540	22,582		
	回転式破碎混合設備損料	TM-1500 1材1添加1ふるい仕様	日	0.41	452,000	185,320		
	バケット(クラウ型)運転 標準型・排出ガス対策型	(第2次基準値) 標準バケット容量(山積0.8/平積0.6m ³)	日	0.82	68,000	55,760		
	諸雑費 (率+まるめ) 41%		式	1		48,475		
	計					352,200		
	単価					3,522	円/m ³	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土砂分別事前改良	吸水性泥土改質材添加量60kg/m3	単位	m 3	数量	100	単価	1,151
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0.38	35,088	13,333		
	普通作業員		人	1.54	27,540	42,411		
	バックホウ(クローラー型)運転 標準型・クレーン機能付き・排出ガス	対策型(第3次基準値)(山積0.8/平積0.6m3)吊能力2.9t	日	0.77	76,980	59,274		
	諸雑費(まるめ)		式	1		82		
	計					115,100		
	単価					1,151	円/m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	処分費（m 3）		単位	m 3	数量	100	単価	24, 000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費		管理型混合廃棄物	m 3	100	24, 000	2, 400, 000		
計						2, 400, 000		
単価						24, 000	円／m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土運搬船運転工	開閉式 300m3積 日当り施工量200m3程度	単位	日	数量	1	単価	1,035,000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
引船運転		鋼製 D500PS型40GT	日	2	282,600	565,200		
土運船運転		開閉式 300m3積	日	2	232,600	465,200		
諸雑費（率＋まるめ） 0.5%			式	1		4,600		
計						1,035,000		
単価						1,035,000	円／日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土運船補助船運転	補助船 D500PS型 40GT（引船同等規格）	単位	日	数量	1	単価	236,000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
高級船員			人	1	40,494	40,494		
普通船員			人	1	33,354	33,354		
引船運転		鋼製 D500PS型 40GT	日	1	162,100	162,100		
諸雑費（まるめ）			式	1		52		
計						236,000		
単価						236,000	円／日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	車止め撤去		単位	m	数量	5	単価	37, 250
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	バリカー撤去	φ 65 2mタイプ 再利用撤去	m	2	46, 570	93, 140		
	バリカー撤去	φ 65 3mタイプ 再利用撤去	m	3	31, 050	93, 150		
	計					186, 290		
	単価					37, 250	円／m	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ガードレール設置（材料費を除く手間のみ）	Gr-C-3B L=6. 2m	単位	m	数量	15	単価	5, 179
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	特殊作業員		人	2	31, 314	62, 628		
	コンクリート用骨材 砂	洗い 細目	m ³	0. 1	6, 300	630		
	白色ポルトランドセメント	20kg袋 太平洋セメント	袋	1	1, 580	1, 580		
	軽油		L	5	131	655		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	2 t 積級	供用日	1	5, 520	5, 520		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	タイヤ(供用日当り)	供用日	1	182	182		
	モルタル混合機材	工具	式	1		6, 500		
	計					77, 695		
	単価					5, 179	円／m	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	敷鉄板設置・撤去	設置・撤去	単位	m 2	数量	100	単価	459.7
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0.295	35,088	10,350		
	とび工		人	0.295	33,762	9,959		
	普通作業員		人	0.295	27,540	8,124		
	バックホウ（クローラ型）運転		日	0.295	57,920	17,086		
	諸雑費（率＋まるめ） 1%		式	1		451		
	計					45,970		
	単価					459.7	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	敷鉄板賃料	22×1,524×6,096(mm) 無 51日 無 有	単位	枚	数量	1	単価	5,486
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	敷き鉄板賃料	22×1524×6096mm	枚	1	4,386	4,386		
	整備費（敷鉄板）	22×1524×6096mm	枚	1	1,100	1,100		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					5,486		
	単価					5,486	円／枚	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	敷鉄板賃料	22×1,524×6,096(mm) 無 88日 無 有	単位	枚	数量	1	単価	8,668
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	敷き鉄板賃料	22×1524×6096mm	枚	1	7,568	7,568		
	整備費（敷鉄板）	22×1524×6096mm	枚	1	1,100	1,100		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					8,668		
	単価					8,668	円／枚	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	敷鉄板賃料	22×1,524×6,096(mm) 無 46日 無 有	単位	枚	数量	1	単価	5,056
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	敷き鉄板賃料	22×1524×6096mm	枚	1	3,956	3,956		
	整備費（敷鉄板）	22×1524×6096mm	枚	1	1,100	1,100		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					5,056		
	単価					5,056	円／枚	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土木シート設置		単位	m 2	数量	100	単価	27.54
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
普通作業員			人	0.1	27,540	2,754		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						2,754		
単価						27.54	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土木シート撤去		単位	m 2	数量	1,000	単価	186
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	1	35,088	35,088		
	普通作業員		人	5	27,540	137,700		
	軽油		L	5	131	655		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	2 t 積級	供用日	1	5,520	5,520		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	タイヤ(供用日当り)	供用日	1	182	182		
	諸雑費（率＋まるめ） 4%		式	1		6,855		
	計					186,000		
	単価					186	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	処分費（m 3）		単位	m 3	数量	100	単価	12, 000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費		廃プラスチック	m 3	100	12, 000	1, 200, 000		
計						1, 200, 000		
単価						12, 000	円／m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	汚濁防止フェンス	設置・撤去	単位	m	数量	100	単価	18,610
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	汚濁防止フェンス設置・撤去	設置・撤去						
			m	100	3,540	354,000		
	汚濁防止フェンス賃料	単独ポートφ300 1000以上2000未満 92日間						
			m	100	13,700	1,370,000		
	アンカー工 10%		式	1		137,000		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					1,861,000		
	単価					18,610	円／m	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	交通誘導警備員B		単位	人日	数量	1	単価	19,080
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	交通誘導警備員B		人	1	19,074	19,074		
	諸雑費（まるめ）		式	1		6		
	計					19,080		
	単価					19,080	円／人日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	土砂分別機分解組立輸送費 回転式 破碎混合機	φ1500(1材1添加1ふるい仕様) (キャリブレーション含む)	単位	式	数量	1	単価	5,957,000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	14	35,088	491,232		
とび工			人	14	33,762	472,668		
溶接工			人	10	38,862	388,620		
電工			人	12	34,986	419,832		
特殊作業員			人	14	31,314	438,396		
普通作業員			人	14	27,540	385,560		
回転式破碎混合設備損料		TM-1500 1材1添加1ふるい仕様	日	1	452,000	452,000		
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型]		5 0 t 吊	日	2	92,000	184,000		
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型]		2 5 t 吊	日	12	53,200	638,400		
バックホ(クローラ型)運転 標準型・排出ガス対策型		(第2次基準値) 標準バケット容量(山積0.8/平積0.6m3)	日	4	68,000	272,000		
ガンボトラック運転		オンロード・デイスセル 4t積級	日	2	39,990	79,980		

参考資料 (1)

單個使用年月	2026. 3
步掛使用年月	2026. 3
勞務調整係數	1. 000-00-00-2-0

[illegible]

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運	関東・中部・近畿 17.4km 12m以内 各種(実数入力) 0無 無	単位	t	数量	1	単価 4,660
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
基本運賃区分A		製品長12m以内 20kmまで	t	1	4,660	4,660	
諸雑費（まるめ）			式	1		0	
計						4,660	
単価						4,660	円／t

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	仮設材等の積込み、取卸し費	積込み、取卸し(片道分)	単位	t	数量	1	単価 1,500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
積込み、取卸し費（仮設材等）			t	1	1,500	1,500	
諸雑費（まるめ）			式	1		0	
計						1,500	
単価						1,500	円／t

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

えい航費	土運船（開閉式）（引船・土運船）	単位	回	数量	1	単価	434, 300
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
高級船員		人	2	40, 494	80, 988		
普通船員		人	2	33, 354	66, 708		
重油	A重油（ローリー）	L	465	86. 7	40, 315		
引船〔鋼製〕（9欄）	D 500 P S 型 40 G T	時間	5	4, 460	22, 300		
引船〔鋼製〕（11欄）	D 500 P S 型 40 G T	供用日	1	46, 300	46, 300		
土運船〔開閉式〕（11欄）	300m3積	供用日	2	88, 800	177, 600		
諸雑費（まるめ）		式	1		89		
計					434, 300		
単価					434, 300	円／回	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	処分費（m ³ ）		単位	m ³	数量	100	単価	
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費		木材（幹）	m ³	100				
	計							
	単価						円／m ³	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

間接費（交通船運転）		単位	日	数量	1	単価	56,620
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
高級船員		人	1	40,494	40,494		
重油	A重油（ローリー）	L	42	86.7	3,641		
交通船〔鋼製〕	D 50PS型 4.9GT	供用日	1.68	7,430	12,482		
諸雑費（まるめ）		式	1		3		
計					56,620		
単価					56,620	円／日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	単管バリケード 組立・設置		単位	m	数量	100	単価	551. 8
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0. 6	35, 088	21, 052		
	普通作業員		人	1. 2	27, 540	33, 048		
	諸雑費（率＋まるめ） 2%		式	1		1, 080		
	計					55, 180		
	単価					551. 8	円／m	

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	高輝度LED点滅灯 設置	W90mm×H195mm	単位	個	数量	100	単価 219. 1
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役			人	0. 35	35, 088	12, 280	
普通作業員			人	0. 35	27, 540	9, 639	
計						21, 919	
単価						219. 1	円／個

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	工事用取付ホルダー 設置	F型ホルダー JS-F	単位	台	数量	100	単価 375. 7
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役			人	0. 6	35, 088	21, 052	
普通作業員			人	0. 6	27, 540	16, 524	
計						37, 576	
単価						375. 7	円／台

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	ノンスリップマグシート設置	500×150	単位	枚	数量	100	単価	626.2
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	1	35,088	35,088		
	普通作業員		人	1	27,540	27,540		
	計					62,628		
	単価					626.2	円／枚	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	単管バリケード 集積・撤去		単位	m	数量	100	単価	551.8
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0.6	35,088	21,052		
	普通作業員		人	1.2	27,540	33,048		
	諸雑費（率＋まるめ） 2%		式	1		1,080		
	計					55,180		
	単価					551.8	円／m	

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	高輝度LED点滅灯 撤去	W90mm×H195mm	単位	個	数量	100	単価 125. 2
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役			人	0. 2	35, 088	7, 017	
普通作業員			人	0. 2	27, 540	5, 508	
計						12, 525	
単価						125. 2	円／個

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0
	工事用取付ホルダー 撤去	F型ホルダー JS-F	単位	台	数量	100	単価 219. 1
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役			人	0. 35	35, 088	12, 280	
普通作業員			人	0. 35	27, 540	9, 639	
計						21, 919	
単価						219. 1	円／台

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0	
	ノンスリップマグシート撤去	500×150	単位	枚	数量	100	単価	450. 8
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	0. 5	35, 088	17, 544		
普通作業員			人	1	27, 540	27, 540		
計						45, 084		
単価						450. 8	円／枚	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 3 2026. 3 1. 000-00-00-2-0	
	システム初期費（ＩＣＴ）	バックホウ	単位	式	数量	1	単価	598, 000
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
システム初期費		バックホウ	式	1		598, 000		
計						598, 000		
単価						598, 000	円／式	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	不整地運搬車運転	5, 000m3以上	単位	日	数量	1	単価	101, 700
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31, 722	31, 722		
	軽油		L	147	131	19, 257		
	不整地運搬車	[クローラ型・ダンプ・全旋回式] 1 0～1 1 t 積級	日	1. 54	32, 900	50, 666		
	諸雑費（まるめ）		式	1		55		
	計					101, 700		
	単価					101, 700	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	バックホウ(クローラ型)運転 標準型・排出ガス対策型	(第2次基準値) 標準バケット容量(山積0.8/平積0.6m ³)	単位	日	数量	1	単価	68,000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31,722	31,722		
	軽油		L	83	131	10,873		
	バックホウ（クローラ）〔標準〕	排ガス型（第2次） 山積0.8m ³	供用日	1.46	17,400	25,404		
	諸雑費（まるめ）		式	1		1		
	計					68,000		
	単価					68,000	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	バックホウ(クローラー型)運転 標準型・クレーン機能付き・排出ガス	対策型(第3次基準値)(山積0.8/平積0.6m3)吊能力2.9t	単位	日	数量	1	単価	76,980
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31,722	31,722		
	軽油		L	105	131	13,755		
	バックホウ(クローラー型)運転 標準型・クレーン機能付き・排出ガス	対策型(第3次基準値)(山積0.8/平積0.6m3)吊能力2.9t	供用日	1.5	21,000	31,500		
	諸雑費（まるめ）		式	1		3		
	計					76,980		
	単価					76,980	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	引船運転	鋼製 D500PS型40GT	単位	日	数量	1	単価	282, 600
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	重油	A重油（ローリー）	L	342	86. 7	29, 651		
	高級船員		人	2. 62	40, 494	106, 094		
	普通船員		人	1. 31	33, 354	43, 693		
	引船〔鋼製〕（9欄）	D 500 P S 型 40 G T	時間	6	4, 460	26, 760		
	引船〔鋼製〕（11欄）	D 500 P S 型 40 G T	供用日	1. 65	46, 300	76, 395		
	諸雑費（まるめ）		式	1		7		
	計					282, 600		
	単価					282, 600	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	土運船運転	開閉式 300m3積	単位	日	数量	1	単価	232, 600
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
普通船員			人	2. 62	33, 354	87, 387		
土運船〔開閉式〕（11欄）			供用日	1. 65	88, 000	145, 200		
諸雑費（まるめ）			式	1		13		
計						232, 600		
単価						232, 600	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	引船運転	鋼製 D500PS型 40GT	単位	日	数量	1	単価	162, 100
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	重油	A重油（ローリー）	L	679	86. 7	58, 869		
	引船〔鋼製〕（15欄）	D 500 P S 型 40 G T	供用日	1. 52	67, 900	103, 208		
	諸雑費（まるめ）		式	1		23		
	計					162, 100		
	単価					162, 100	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	バリカー撤去	φ 65 2mタイプ 再利用撤去	単位	m	数量	2	単価	46,570
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	1	35,088	35,088		
	普通作業員		人	1	27,540	27,540		
	常温合材	高耐久常温合材	kg	60	300	18,000		
	諸雑費（率＋まるめ） 20%		式	1		12,522		
	計					93,150		
	単価					46,570	円／m	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	バリカー撤去	φ 65 3mタイプ 再利用撤去	単位	m	数量	3	単価	31,050
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	1	35,088	35,088		
	普通作業員		人	1	27,540	27,540		
	常温合材	高耐久常温合材	kg	60	300	18,000		
	諸雑費（率＋まるめ） 20%		式	1		12,522		
	計					93,150		
	単価					31,050	円／m	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	バックホウ（クローラ型）運転		単位	日	数量	1	単価	57, 920
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31, 722	31, 722		
	軽油		L	119	131	15, 589		
	バックホウ（クローラ）〔標準・クレーン機能付き〕	山積0. 8 m 3（平積0. 6 m 3） 2. 9 t 吊	日	1. 06	10, 000	10, 600		
	諸雑費（まるめ）		式	1		9		
	計					57, 920		
	単価					57, 920	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	汚濁防止フェンス設置・撤去	設置・撤去	単位	m	数量	100	単価	3,540
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	2.2	35,088	77,193		
	普通作業員		人	5.4	27,540	148,716		
	バックホウ（クローラ型）運転		日	2.2	53,550	117,810		
	諸雑費（率＋まるめ） 3%		式	1		10,281		
	計					354,000		
	単価					3,540	円／m	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	バックホウ(クローラ型)運転 標準型・排出ガス対策型	(第2次基準値) 標準バケット容量(山積0.8/平積0.6m ³)	単位	日	数量	1	単価	68,000
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31,722	31,722		
	軽油		L	83	131	10,873		
	バックホウ（クローラ）〔標準〕	排ガス型（第2次） 山積0.8m ³	供用日	1.46	17,400	25,404		
	諸雑費（まるめ）		式	1		1		
	計					68,000		
	単価					68,000	円／日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	ダンプトラック運転	オンロード・ディーゼル 4t積級	単位	日	数量	1	単価	39,990
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（一般）		人	1	26,112	26,112		
	軽油		L	30	131	3,930		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	4 t 積級	供用日	1.16	8,310	9,639		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	タイヤ(供用日当り)	供用日	1.16	261	302		
	諸雑費（まるめ）		式	1		7		
	計					39,990		
	単価					39,990	円／日	

参考資料（３）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	バックホウ（クローラ型）運転		単位	日	数量	1	単価	53, 550
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（特殊）		人	1	31, 722	31, 722		
	軽油		L	88	131	11, 528		
	バックホウ（クローラ）〔標準・クレーン機能付き〕	山積0. 8 m 3（平積0. 6 m 3） 2. 9 t 吊	日	1. 03	10, 000	10, 300		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					53, 550		
	単価					53, 550	円／日	

共通仮設費

主たる工種						
単独（追加工事）： 海岸工事			合算工事： 0			
対象工事費	124,966,610	直接工事費	124,726,610	準備費	240,000	事業損失 0
対象工事費に含まれる全処分費額		単独（追加工事）	1,128,000	現工事	0	合算工事 0
非対象額計（－）		0				
管理費区分 1		0	（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）			
管理費区分 2， 7		0	（工場原価）			
管理費区分 5		0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分 9		0	（間接費非対象額）			
管理費区分 T		0	（全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額）			
対象額 支 給 品（＋）		0				
無償貸付機械評価額（＋）		0				
共通仮設費対象額						
単独（追加工事）		124,966,610		現工事	0	合算工事 0
全処分費等を除く共通仮設費対象額		123,838,610			0	0
共通仮設費（率分）						
率（補正前）		6.7 %		0	%	
施工地域等補正		1.2	ICT 施工補正	1		
率（補正後）		8.2 %	（8.04% × 週休1.02）			
計上額		10,247,000		0		0
比較結果						
当該追加工事		A				
	0	0			調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	123, 838, 610	直接工事費	124, 726, 610		
非対象額計（－）	888, 000				
管理費区分 1	0	（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）			
管理費区分 2, 7	0	（工場原価）			
管理費区分 5	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分 9	0	（間接費非対象額）			
管理費区分 T	888, 000	（直接工事費に含まれる処分費等）			
対象額 支 給 品（＋）	0				
無償貸付機械評価額（＋）	0				
現場環境改善費対象額（P i）					
単独（追加工事）	123, 838, 610	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率（補正前）	2. 21 %	0 %		0 %	
施工地域等補正	市街地				
率（補正後）	2. 21 %				
計上額	2, 736, 000	0		0	
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	22,510,252				
運搬費	13,127,280	準備費	460,800	事業損失防止施設費	0
安全費	7,180,172	役務費	0	技術管理費	1,742,000
営繕費	0	現場環境改善費	0		
共通仮設費計					35,493,252

現場管理費

単独（追加工事）純工事費	160,219,862	単独（追加工事）直接工事費	124,726,610	単独（追加工事）共通仮設費	35,493,252
非対象額計（－）	1,144,000				
管理費区分2, 7	0	（工場原価）			
管理費区分5	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分9	1,144,000	（間接費非対象額）			
管理費区分T	0	（全処分費等のうち3％または3000万円を超える額）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械等評価額（＋）	0				
現場管理費対象純工事費					
単独（追加工事）	159,075,862	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	157,947,862		0		0
現場管理費対象純工事費（調整工事入力で使用）					
率（補正前）	21.85％		0％		0％
施工地域等補正	1.1				
施工時期補正	0％	熱中症補正	0％	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0％				
砂防・地すべり補正	0％		0％		
率（補正後）	24.76％（24.04％×週休1.03）		0％		
計上額	39,387,000		0		0
			7,819,374（工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額）		
比較結果　当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

一般管理費等（当初）

事務所名 京浜河川事務所 工務課

工事番号 2025030023

第 0 回変更

発注年月 令和08年01月

契約区分 単年度（繰越を含む）の分任官

主工種 海岸工事

工事原価	199,606,862				
純工事費	160,219,862	現場管理費	39,387,000	工期延長等に伴う現場維持費	0
非対象額計（一）	1,144,000				
管理費区分9	1,144,000	（支給品を除く間接費非対象額）			
管理費区分T	0	（全処分費等のうち3%または3000万円を超える額）			
一般管理費等対象工事原価					
単独（追加工事）	198,462,862	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く					
一般管理費等対象工事原価	197,334,862	現工事	0	合算工事	0
	（調整工事入力で使用）				
前払金支出割合による補正係数	1	現工事			
財団法人等による補正係数	1				
契約保証に係る一般管理費対象工事原価	198,462,862				
契約保証に係る補正值	0.04 %				
一般管理費率					
単独（追加工事）	15.61 %	現工事	0 %	合算工事	0 %
一般管理費	31,053,138				
業務委託料等	0				
調査基準価格	230,439,000				
調査基準価格の100/110	209,490,000	（ 90.82 %）			

R 7 多摩川東六郷河道掘削工事

(当 初) 請負工事費計算書

(1)直接工事費 -----	124,726,610
(2)共通仮設費 -----	35,493,252
(3)純工事費 -----	160,219,862

(1)+(2)

(4)現場管理費 -----	39,387,000
(5)工期延長等に伴う現場維持等の費用 -----	0

(6)工事原価 -----	199,606,862
(3)+(4)+(5)+(18)	

(7')一般管理費等(計上額) -----	31,053,138
-----------------------	------------

(8')その他費目計 -----	0
------------------	---

(9)業務委託料等 -----	0
------------------	---

(10)工事価格 -----	230,660,000
----------------	-------------

(6)+(7')+(8')+(9) (万円未満切り捨て)

(11)消費税相当額 -----	23,066,000
------------------	------------

(12)請負工事価格 -----	253,726,000
------------------	-------------

(10)+(11)

(13)入札書比較価格 -----	230,660,000
-------------------	-------------

(請負工事費の100/110)

(14)調査基準価格 -----	230,439,000
------------------	-------------

(15)調査基準価格の100/110 -----	209,490,000
--------------------------	-------------

(万円未満切り捨て)

(16)工場製作純工事費 -----	0
--------------------	---

(17)工場管理費 -----	0
-----------------	---

(18)工場製作原価 -----	0
------------------	---

(16)+(17)

((7)一般管理費等(計算額) 31,059,437)

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 R 7 多摩川東六郷河道掘削工事

国土交通省 関東地方整備局

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
堤防・護岸		式		1		
海岸土工		式		1		
掘削工 (ICT)		式		1		
掘削 (ICT) 平均潮位以上	土砂 オープンカット 障害無し 5,000m3以上10,000m3未満	m3		5,000		
掘削 (ICT) 平均潮位以下	土砂 オープンカット 障害有り 5,000m3以上10,000m3未満	m3		3,800		
土砂等運搬 施工箇所～場内仮置場	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式		1		
土砂等運搬 場内仮置場～曝気ヤード	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式		1		
土砂等運搬 曝気ヤード～土砂分別	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式		1		
土砂等運搬 曝気ヤード～船着場	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	式		1		
整地 曝気ヤード	残土受入れ地での処理	式		1		
積込 (ルース)	土砂 土量50,000m3未満	式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
土砂分別・運搬工		式		1		
土砂分別		m3		5,000		
土砂分別事前改良		式		1		
土砂等運搬 土砂分別～関戸SY	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	式		1		
整地	残土受入れ地での処理	式		1		
積込(ルース)	土砂 土量50,000m3未満	式		1		
廃材処分	混合廃棄物	m3		36		
作業船運転工		式		1		
積込(ルース)	土砂 土量50,000m3未満	式		1		
土運搬船運転	300m3積 開閉式	式		1		
土運搬補助船運転	引船 D500PS型 40GT	式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
構造物撤去工		式		1		
防護柵撤去工		式		1		
車止め撤去		m		5		
運搬処理工		式		1		
現場発生品運搬	車止め	t		0.04		
付帯道路工		式		1		
路側防護柵工		式		1		
ガードレール	Gr-C-3B独立基礎 支給品	m		6		
支給品運搬	Gr-C-3B	t		0.08		
仮設工		式		1		
工事用道路工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
敷鉄板	22×1,524×6,096 (mm) 設置・撤去	式		1		
土木シート		式		1		
汚濁防止工		式		1		
汚濁防止フェンス	設置・撤去	式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
土砂分別機分解組立輸送費		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
仮設材運搬費		式		1		
作業船等えい航費		式		1		
準備費		式		1		
木根等処分費		式		1		
安全費		式		1		
警戒船		式		1		
安全施設費		式		1		
技術管理費		式		1		
土質等試験費		式		1		
システム初期費 (ICT)		式		1		
現場環境改善費 (率計上)		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
共通仮設費 (率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

R 7 多摩川東六郷河道掘削工事

特記仕様書

令和8年1月

国土交通省関東地方整備局

京浜河川事務所

第1章 総則

第1条 適用

1. この特記仕様書は、関東地方整備局 土木工事共通仕様書(令和 7 年度版)(以下「共通仕様書」という。)でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。
2. この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。
3. この特記仕様書に添付されていない別紙様式等については以下 URL よりダウンロードするものとする。

URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000015.html>

4. 本工事における「条件明示」については、別紙ー1「明示項目および明示事項」に記載のとおりとする。

第2条 主任技術者等(契約書第10条)

本工事の主任技術者又は監理技術者は、受注者が提出した競争参加資格確認申請書に記述した配置予定の技術者でなければならない。

第3条 主任技術者等の専任期間

1. 契約締結日の翌日から工事の始期までの期間については、主任技術者又は監理技術者の配置を要しない。
2. 契約締結日の翌日から現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。
3. 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。)、事務手続後、後片付け等のみが残っている期間については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日(例:「完成通知書」等における日付)とする。
4. 主任技術者又は監理技術者が技術研鑽のための研修、講習、試験等で短期間工事現場を離れる場合は、適切な施工ができる体制を確保したうえで、監督職員の承諾を得るものとする。

第4条 専任特例1号の場合の監理技術者又は主任技術者の配置

本工事は、建設業法第26条第3項第一号の規定の適用を受ける監理技術者又は主任技術者の配置は認めない。

第5条 専任特例2号の場合の監理技術者の配置

1. 本工事において、建設業法第26条第3項第二号の規定の適用を受ける監理技術

者（以下、「専任特例２号の場合の監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。

- （１）建設業法第２６条第３項第二号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
 - （２）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第２７条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例２号の場合の監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
 - （３）監理技術者補佐は、直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
 - （４）同一の専任特例２号の場合の監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に２件までとする。なお、専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者を活用した工事と兼務することは出来ない。
（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるものについては、これら複数の工事を一の工事とみなす。）
 - （５）専任特例２号の場合の監理技術者が兼務できる工事は東京都内（島しょ部除く）及び神奈川県内の工事でなければならない。
 - （６）専任特例２号の場合の監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
 - （７）専任特例２号の場合の監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
 - （８）監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
- ２．現場の安全管理体制について、平成７年４月２１日付基発第２６７号の２「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とする」とされていることから、施工体制に留意すること。
- ３．本工事の監理技術者が専任特例２号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事を予定している場合、以下の書類を提出すること。
- １）監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者の合格証の写しなど）
 - ２）監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類（監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料（いずれも写し可））
 - ３）専任特例２号の場合の監理技術者が兼務する工事の箇所、内容を示す書類（CORINSの写し）
- ４．本工事の監理技術者が専任特例２号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事となった場合、第１項（５）～（８）について施工

計画書へ記載し、提出すること。

5. 本工事において、専任特例 2 号の場合の監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は、コリンズ（CORINS）への登録・修正を適切に行うこと。

第 6 条 コリンズ（CORINS）への登録

1. 工事カルテの作成、登録については、土木工事共通仕様書「1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録」によるものとする。
2. 受注者は、工事受注後又は施工中において当該工事に係る悪質で不誠実な行為（一括下請負等）が発覚し、指名停止の措置を受けた場合は、登録済みの工事カルテの取り下げを行うものとする。
3. 技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）

第 7 条 コリンズ（CORINS）への位置情報の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標（緯度、経度）を記載するものとする。なお、座標は、世界測地系（JGD2024）に準拠する。

起点 東京都大田区東六郷 緯度 35° 32' 16" 経度 139° 42' 45"

終点 東京都大田区東六郷 緯度 35° 32' 15" 経度 139° 42' 41"

第 8 条 コリンズ（CORINS）への工事概要の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を受注時に作成するにあたり、工事概要について必須登録とし、記載例を参考にすること。

記載例)

本工事は、多摩川左岸 5. 2 ～ 5. 3 k 付近において河道掘削工事を行うものである。

主な工種は掘削工であり、8,800m³ を予定している。

第 9 条 コリンズ（CORINS）への設計業務名及びテクリス番号の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、設計業務名およびテクリス番号を登録すること。設計業務名およびテクリス番号については以下のとおりとする。

記載例)

コリンズへ登録する業務名およびテクリス番号

業務名	テクリス番号
令和 3 年多摩川水系河道管理検討詳細設計業務	4045294380

第10条 施工体制台帳

工事成績優秀企業に認定され、認定有効期限内に、工事発注の契約を行った工事の監理技術者、主任技術者（工事成績優秀企業に認定された下請負を含む）は、工事成績優秀企業認定マークの使用や金色帯線（黄色もしくは橙色の帯線でも可）を名札上部に印刷することが出来るものとする。

監理（主任）技術者	
写真 2cm×3cm 程 度	氏名 ○○ ○○ 工事名 ○○改良工事 工期 自○○年○○月○○日 至○○年○○月○○日 会社 ◇◇建設株式会社
	 印

注意1）用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注意2）所属会社の写真とする。

第11条 調査・試験に対する協力（低入札価格調査制度調査対象工事について）

1. 契約担当官等が工事の中間において技術検査の必要を認めた場合は、速やかに監督職員の指示に従い、検査を受けなければならない。なお、検査は工事請負契約書及び共通仕様書に適用する条項に準じて行うものとする。
2. 予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、受注者は下記の調査に協力しなければならない。
 - (1) 受注者は、下請負者の協力を得て間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の作成を行い、工事完了後、速やかに発注者に提出するものとする。
 - (2) 受注者は、提出された間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、受注者は下請負者についてもヒアリングに参加させるものとする。
 - (3) 工事コスト調査（調査結果でも可）に係る資料は、下記のとおりとし、関東地方整備局又は京浜河川事務所のホームページにより公表する。
 - (4) 低入札価格調査と工事コスト調査の結果に大きな乖離がある場合、又は、工事コスト調査資料の提出が無い場合には、工事成績評点を減点する場合がある。

なお、低入札価格調査対象工事については、工事コスト調査終了後に、工事成績評点を通知する。公開資料は以下のとおり。

資料名	内 容
低価格理由とその詳細	当該工事が低価格で施行可能となる理由を示した資料
比較表－1	積算内訳書の発注者と元請における当初と実績の比較表

比較表－２	積算内訳書に対する明細書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－３	元請の手持ち資材の当初と実績の比較表
比較表－４	元請の資材購入先一覧の当初と実績の比較表
比較表－５	手持ち機械の当初と実績の比較表
比較表－６	労務者確保計画の当初と実績の比較表
比較表－７	工種別労務者確保計画の当初と実績の比較表
比較表－８	建設副産物の搬出の当初と実績の比較表
諸経費動向調査(工事費)	元請、下請の工事費内訳

注) 特記仕様書に別紙様式等を添付する場合には必ず別紙様式－０（公表資料）を添付すること

第１２条 低入札契約におけるモニターカメラの設置

本工事は、予算決算及び会計令第８５条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、工事の監督補助としてモニターカメラの設置を行う対象工事とする。

なお、モニターカメラの設置費用については、発注者の負担によるものとする。

第１３条 不可視部分の出来形管理について

予算決算及び会計令第８５条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、以下に示す工種の不可視部分について、ビデオカメラを用いた出来形管理を行うこととし、撮影した映像については監督職員に提出するものとする。

- ① 掘削工
- ② 付帯道路工

第１４条 工事書類の作成

- １．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類作成マニュアル（令和７年３月）」に基づき実施するものとする。
- ２．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類スリム化ガイド（令和７年３月）」を参考に書類の電子化、受発注者間での作成書類の役割分担の明確化、書類の削減等に留意すること。
- ３．「工事関係書類一覧表」（別紙様式－１５）により、工事着手前に「作成書類の役割分担」、「作成書類の位置付け」に関して「協議」するものとする。
また、「協議」の内容を変更する場合は、改めて、受発注者で協議を行うものとする。
- ４．電子により提出、提示した書類については、検査時その他の場合においても紙での提示、提出は行わないものとする。

第15条 設計図書の照査

発注者は、設計図書の照査の範囲を超える資料の作成については、監督職員の指示とし、その作成費用は、設計変更の対象とする。なお、設計変更の対象については、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和7年3月」によるものとする。

第16条 情報共有システムの活用

1. 本工事は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの活用対象工事である。なお、活用にあたっては「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」（令和7年3月版）に基づき実施すること。
2. 受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、使用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。
 - ・ 工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件（Rev5.7）
令和7年3月版 国土交通省（国土技術政策総合研究所）
3. 監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーID数、ディスク容量等の仕様やワークフロー機能の対象者等については、監督職員の確認を得た上で決定すること。
4. 受注者は、サービス提供者と次の内容を含めた契約を締結するものとする。
 - ① 情報共有システムに関する障害を適正に処理、解決できる体制を整える旨
 - ② サービス提供者が善良なる管理者の注意をもってしても防御し得ない不正アクセス等により、情報漏洩、データ破壊、システム停止等があった場合、速やかに受注者に連絡を行い適正な処置を行う旨
 - ③ ②の場合において、サービス提供者に重大な管理瑕疵があると監督職員若しくは受注者が判断した場合、又は復旧若しくは処理対応が不適切な場合には、受注者はサービス提供者と協議の上情報共有システムの利用を停止することができる旨
5. 受注者は、監督職員等から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第17条 「設計・施工技術連絡会議（三者会議）」の設置

本工事は、「設計・施工技術連絡会議（三者会議）」（以下、「三者会議」という。）の対象工事では無いが、受注者から「三者会議」の開催を要請した場合、明らかに会議開催の必要性が乏しいと判断される場合を除き、公共工事の品質確保及び円滑な事業執行を目的として、発注者、設計者、施工者（工事受注者）の三者が工事着手前等において一堂に会して、事業目的、設計思想・条件等の情報の共有及び施工上の課題、新たな技術提案に対する意見交換等を行う「三者会

議」を開催するものとする。

受注者は、「三者会議」の開催を要請する場合、監督職員と協議するものとする。

「三者会議」の運用にあたっては、「設計・施工技術連絡会議（「三者会議」運用方針）（<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）によるものとする。

第18条 設計審査会の設置

本工事は、発注者と受注者が一堂に会して、現場着手前（準備期間内）に工事工程クリティカルパスの共有及び工事工程の照合（クロスチェック）を実施し、併せて協議資料作成等の受発注者間の役割分担を明確にする場、また、設計変更手続きの透明性と公正性の向上及び迅速化のため、設計変更の妥当性の審議及び設計変更等に伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「設計審査会」

（以下、「審査会」という。）の設置対象工事である。

「審査会」の運用にあたっては、「設計審査会設置運用方針」

（<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）によるものとする。

第19条 工事環境の改善

本工事の実施にあたっては、工事環境の改善に取り組むウィークリースタンスを考慮するものとする。

ウィークリースタンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ <https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html> に掲載している工事環境改善実施要領に基づき、監督職員と確認・調整した内容について取り組むものとする。

第20条 ワンデーレスポンス

1. この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。

・「ワンデーレスポンス」とは受注者からの質問、協議等への回答は、基本的に「その日のうち」に指示、通知等行うよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」に通知することである。

2. 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。

3. 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

4. ワンデーレスポンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ <https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html> に掲載しているワンデーレスポンス実施の手引き（令和5年12月）に基づき、取り組むもの

とする。

5. 効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

第21条 契約内容の変更手続きについて

本工事における契約内容の変更は、以下によるものとする。

- ① 本工事における設計変更や契約変更は書面に基づき行うことを徹底し、指示書・協議書があるもののみを契約変更の対象とする。
- ② 受注者は、工事期間中及び工事完成後において、監督職員から契約図書の規定に違反する等の不適切な指示を受けたと思料されるときは、当該監督職員を経由せずに、事務所長へ直接又は契約担当課長経由で書面により、その旨を報告することができる。

第22条 設計図書の変更等

設計変更等については、契約書第18条から第25条及び共通仕様書共通編1-1-1-16から1-1-1-18に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和7年3月」によることとする。

第23条 スライド条項

工事請負契約書第26条（スライド条項）については、物価水準の変動により請負代金が不相当となったと認められた時に、相手方に請負代金の変更を請求することができる条項となっている。

単品スライドについては、鋼材類・燃料油の他、コンクリート類、購入土などの主要工事材料も対象となるので、物価水準の変動により請負代金が不相当となった場合には、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。

第24条 支給材料及び貸与物件

支給材料は、下表のとおりとする。

品目	規格	単位	数量	支給場所	摘要
端末支柱	φ116× 4.2 × 1210	本	1	田園調布 出張所 資材置場	
中間支柱	φ116× 4.2 × 1110	本	1	田園調布 出張所 資材置場	

3 型レール	t=2.3 L=3330	枚	2	田園調布 出張所 資材置場	
ボルト・ナット・丸ワッシャー		個	16	田園調布 出張所 資材置場	

なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第 25 条 工事現場発生品

1. 現場発生品は下表のとおりとする。

品目	規格	単位	数量	引渡場所	運搬距離	摘要
車止め	φ 65 2m タイプ 基礎付き	基	1	田園調布 出張所 資材置場	L=9.0km 以下	
車止め	φ 65 3m タイプ 基礎付き	基	1	田園調布 出張所 資材置場	L=9.0km 以下	

なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第 26 条 公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び 再生資源活用工事実施要領(土木)

1. 本工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律((平成 12 年法律第 104 号最終改正令和 4 年 6 月 17 日法律 68 号)。以下「建設リサイクル法」という。)に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「8 解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし工事発注後に明らかになった事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議するものとする。

(1) 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び 解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ■有 □無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有 □無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 ■有 □無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 □有 ■無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有 ■無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	⑥その他 ()	その他の工事 □有 ■無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用

2. 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン(平成14年5月)」に定めた様式1〔再生資源利用計画書(実施書)〕及び様式2〔再生資源利用促進計画書(実施書)〕を兼ねるものとする。
 - ・再資源化等が完了した年月日
 - ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
 - ・再資源化等に要した費用
3. 工事発注後に明らかになった事情により予定していた条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第27条 建設リサイクル法第11条通知の徹底

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号)第11条に基づく、都道府県知事に対する通知を行った旨の書面を監督職員より受領した後に、工事着手(建設リサイクル法第10条第1項に規定する工事着手をいう。)するものとする。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議の上決定するものとする。

第28条 コンクリート副産物から再生された資源について

1. コンクリート副産物から再生された資材を利用する場合には、「コンクリート副産物の再生利用に関する用途別品質基準」によるものとする。
2. 受注者は、コンクリート副産物から再生された資材の利用を希望する場合は、工事着手時にその適用の有無を監督職員と協議するものとする。

3. 受注者は、工場が発行する再生骨材コンクリートの配合計画書及び納入書を整備および管理し、監督職員または検査職員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。
4. 受注者は、再生骨材コンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5022（再生骨材Mを用いたコンクリート）、JIS A 5023（再生骨材Lを用いたコンクリート）により実施しなければならない。また、再生骨材Mを用いたプレキャストコンクリート製品の検査については、JIS A 5365（プレストキャストコンクリート製品－検査方法通則）により実施しなければならない。なお、生産者等に検査のため試験を代行させる場合は受注者がその試験に臨場しなければならない。
5. 再生骨材コンクリートの配合については、「土木工事共通仕様書第1編3－3－3 配合」に従うものとする。

第29条 施工管理

1. 本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値(令和7年度版)によるものとする。なお、この管理基準により難しい場合及び基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。
2. 本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準(令和7年度版)によるものとする。なお、「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。

基準類は、ICT活用工事実施要領

(令和7年3月改定)の関連要領等一覧

(URL「https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html」)によるものとする。

第30条 デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

工事では、以下の1. から4. の全てを実施することとする。

1. 対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、関東地方整備局土木工事写真管理基準(令和7年度版)(以下、写真管理基準)「2-2 撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC

暗号リスト)」(URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア、（一社）施工管理ソフトウェア産業協会、<https://www.jcomsia.org/kokuban>

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない

2. デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、同条1.の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、写真管理基準「2-2 撮影方法」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

3. 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準（以下、デジタル写真管理情報基準）に準ずるが、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入については、写真管理基準「2-5 写真編集等」及びデジタル写真管理情報基準「6. 写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

4. 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は改ざん検知機能（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

また、下記のチェックツールを使用して信憑性確認を行い、結果を出力したものでよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール（一社）施工管理ソフトウェア産業協会

<<https://www.jcomsia.org/kokuban>>

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。なお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を実施しない工事写真がある場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得ること。

第31条 ICT活用工事（土工）について

1. ICT活用工事

本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事である。

2. 定義

(1) i-Construction とは、ICT施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みであり、その実現に向けてICT施工技術を活用した工事（ICT活用工事）を実施するものとする。

(2) ICT活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ICTを全面的に活用する工事である。また、本工事では、施工プロセスの以下①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事とする。対象は、土工を含む工事とする。

① 3次元起工測量

② 3次元設計データ作成

③ ICT建設機械による施工

④ 3次元出来形管理等の施工管理

⑤ 3次元データの納品

3. 受注者は、特記仕様書に指定された土工以外の工種にICT施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下4～8によりICT施工技術の活用を行うことができる。

4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することとし、土工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び数量・対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、土工以外の工種に関するICT施工技術の活用を提案・協議した場合は、土工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。

5. ICT施工技術を用い、以下の施工を実施する。

① 3次元起工測量

受注者、3次元測量データを取得するため、以下1)～7)から選択（複数選択可）して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事または設計段階での3次元データが活用できる場合においては、監督職員と協議の上、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、ICT活用工事とする。

- 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
- 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 5) TS等光波方式を用いた起工測量
- 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
- 7) RTK-GNSSを用いた起工測量

ただし、土工数量 1,000 m³未満における起工測量にあたっては、作業量・現場状況等を考慮して上記 1) ～ 7) 以外の従来手法による起工測量を実施しても ICT活用工事とする。

② 3次元設計データ作成

受注者は、5. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、ICT建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

5. ②で作成した3次元設計データを用い、以下に示すICT建設機械により、施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。

なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和7年3月31日 国土交通省告示第240号）付録1 測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。

1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械※

※MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。

建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・砂防・道路土工の敷均し、掘削、法面整形を実施する。

但し、現場条件により、③ICT建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとし、その場合もICT活用工事とするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。

④ 3次元出来形管理等の施工管理

5. ③による工事の施工管理において、以下のとおり、出来形管理及び品質管理を行うものとする。

(1) 出来形管理

出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）とし、以下1）～4）から選択（複数選択可）して実施するものとする。

また、土工における出来形管理にあたっては、以下1）～4）を原則とするが、現場条件等により以下5）～8）の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。

- 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
- 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 5) TS等光波方式を用いた出来形管理
- 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
- 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理
- 8) 施工履歴データを用いた出来形管理

また、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合及び降雪・積雪等により面管理が実施できない場合は、監督職員との協議の上、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもICT活用工事とする。

(2) 品質管理

品質管理にあたっては、受注者は、河川・海岸・砂防・道路土工の品質管理（締固め度）について、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」により実施する。砂置換法又はRI計法との併用による二重管理は実施しないものとする。

なお、本施工着手前及び盛土材料の土質が変わるごと、また、路体と路床のように品質管理基準が異なる場合に試験施工を行い、本施工で採用する締固め回数を設定すること。

土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがなじまない場合は、監督職員と協議の上、TS・GNSSを用いた締固め回数管理を適用しなくてもよいものとする。

⑤ 3次元データの納品

6. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。

なお、河川土工（掘削工、盛土工、法面整形工）において、3次元計測技術を用いて出来形管理（面管理）を実施した場合は、計測点群データの納品ファイル形式はLASのポイントファイルとする。

7. 上記5. ①～④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。

る。

使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。

発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。

8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。
9. 本特記仕様書に疑義が生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

第32条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査

ICT活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。

施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。

調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第33条 現場環境改善（快適トイレの設置）

1. 内 容

受注者は、現場に以下の（１）～（11）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。

（12）～（17）については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

- （１）洋式（洋風）便器
- （２）水洗及び簡易水洗機能
（し尿処理装置付き含む）
- （３）臭い逆流防止機能
- （４）容易に開かない施錠機能
- （５）照明設備
- （６）衣類掛け等のフック、又は、荷物の置ける棚等（耐荷重を5kg 以上とする）

【付属品として備えるもの】

- （７）現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示

(8) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫

(9) サニタリーボックス

(女性用トイレに必ず設置)

(10) 鏡と手洗器

(11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

(12) 室内寸法 900mm×900mm 以上（面積ではない）

(13) 擬音装置（機能を含む）

(14) 着替え台

(15) 臭気対策機能の多重化

(16) 室内温度の調整が可能な設備

(17) 小物置き場

(トイレトーパー予備置き場等)

2. 快適トイレに要する費用

快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。

受注者は、上記 1 の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。

【快適トイレに求める機能】(1)～(6)及び【付属品として備えるもの】

(7)～(11)の費用については、従来品相当を差し引いた後、51,000 円/基・月を上限に設計変更の対象とする。

なお、設計変更数量の上限は、男女別で各 1 基ずつ 2 基/工事までとする。

また、運搬・設置費は共通仮設費（率）に含むものとし、2 基/工事より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費（率）を想定しており、別途計上は行わない。

3. 快適トイレの「質の向上」に要する費用

快適トイレの「質の向上」として、積算上限額を超える費用について現場環境改善費（率）を充当することができる。現場環境改善費（率）の充当を希望する場合は、上記 2. の協議時に見積書を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとする。

なお、現場環境改善費（率）を充当することにより、特記仕様書に明示されたその他の費目の実施が困難な場合には、実施費目数の変更を合わせて協議することとする。

4. その他

快適トイレの手配が困難の場合は、監督職員と協議の上、本条項の対象外とする。

第34条 BIM/CIM 適用工事について

本工事は、BIM/CIM 適用工事（受注者希望型）である。受注者が希望する場合、3次元モデルの活用を提案することができる。詳細については、受発注者で協議し実施する。

（参考）3次元モデル作成の目安

詳細度	200～300程度※1
	※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報	3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。

1. BIM/CIM 実施計画書の作成

受発注者において、BIM/CIM の実施内容や、納品方法等を協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、提出する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本工事を実施する。

- 1) 工事概要
- 2) 整理すべき課題
- 3) BIM/CIM の実施内容（3次元モデルの活用内容、期待する効果等）
- 4) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの仕様等）
- 5) 3次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 6) 3次元モデル閲覧、データ共有ができるソフトウェアの種類、成果物の納品ファイル形式
- 7) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2. BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づき実施した内容について、BIM/CIM 実施報告書を作成する。以下の内容を BIM/CIM 実施計画書に追記して作成する。

- 1) 後段階への引継事項（データかつ用事の留意点、更なる検討が必要な内容、2次元図面との整合等）
- 2) 省人化の効果（前段階から引き継いだデータの活用により省人化した効果、3次元での検討により省人化した効果等）

3. 成果物の納品

以下の内容を納品する。様式については別添資料を参照すること。

- 1) BIM/CIM 実施計画書・見積書（変更含む）
- 2) BIM/CIM 実施報告書（3次元モデル作成引継書シート、3次元モデル照査時チェックシートを含む）
- 3) 作成した3次元モデル（オリジナルデータ、標準的なデータ形式（J-LandXML 形式、IFC 形式）、統合モデル、動画等）

4. その他

最新の情報はBIM/CIM ポータルサイト

(<https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/bimcimindex.html>) で提供されているので、適宜参照すること。

第35条 DX データセンターの使用

本工事はDX データセンターを使用することで、VDI による専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る工事である。

3次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、国土技術政策総合研究所が運用するDX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。

DXデータセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとする。

なお、DXデータセンターの詳細については、DXデータセンターの参考資料(<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference>) 及びポータルサイト(<https://dxportal.nilim.go.jp/exonym>) を参照すること。

第36条 工事中の安全確保

1. 工事の施工にあたっては、関東地方整備局長が定める「重点的安全対策」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。

なお、令和7年度における重点的安全対策項目は以下の7項目である。

- I. 架空線等上空施設の損傷事故防止
- II. 建設機械等の稼働に関連した人身事故防止
- III. 資機材等の下敷きによる人身事故防止
- IV. 足場・法面等からの墜落事故防止
- V. 地下埋設物の損傷事故防止
- VI. 第三者の負傷・第三者車両等に対する損害
- VII. 事故防止

2. 受注者は、工事に従事する就業制限業務及び作業主任者を選任する業務における資格者のうち、資格取得後一定期間経過した資格者に対し、次に掲げる再教育の受講が推進されるよう努めるものとする。

- ① 労働安全衛生法第19条の2に基づく足場組立等作業主任者等に対する能力向上教育
- ② 労働安全衛生法第60条の2に基づく車両系建設機械運転従事者、移動式クレーン運転士、玉掛業務従事者等に対する危険有害業務従事者教育
- ③ 厚生労働省通達に基づくドラグ・ショベル運転業務従事者等に対する危険再認識教育

3. 工事の施工にあたっては、工事等の時期、工事等の方法の概要 及び 工事等を

行う場合における道路交通に対する措置について「道路工事保安施設設置基準（案）（令和6年2月）」に基づき監督職員へ確認を行うものとする。

4. 工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については、監督職員の承諾を得るものとする。
5. 水上施工期間中は、作業現場に安全確保のための警戒船を多摩川二丁目緊急船着場（東京都大田区多摩川二丁目付近）に2隻配置するものとする。ただし、近接する他工事と配置箇所が重複する場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。
6. 工事期間中に配置する交通誘導警備員は、以下のとおり計上するものとする。ただし、交通管理者等との協議条件など社会的要件、現地精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

工種	作業区分	交通誘導警備員(延人数)	備考
関戸 SY (多摩川右岸 34.0k 付近)	昼間作業	21 人(うち有資格誘導員 0 人)	交代要員なし
海岸土工 (施工箇所付近 (多摩川左岸 5.4k 付近))	昼間作業	112 人(うち有資格誘導員 0 人)	交代要員なし
海岸土工 (河川敷横断道路 (多摩川左岸 7.6k 付近))	昼間作業	240 人(うち有資格誘導員 0 人)	交代要員なし
海岸土工 (多摩川二丁目 緊急船着場 (多摩川左岸 8.4k 付近))	昼間作業	95 人(うち有資格誘導員 0 人)	交代要員なし
合計		468 人(うち有資格誘導員 0 人)	交代要員なし

注)「交代要員含む」とは、休憩、休息時間についても交通整理を行う場合

7. UAV 等を使用する際の安全面への配慮について 受注者は、起工測量等において UAV 等を使用する場合、安全面への配慮として下記 URL に基づいて UAV 等を使用すること。

URL <https://www.gsi.go.jp/KOUKYOU/sokuryosidou41042.html>

第37条 熱中症対策に資する現場管理費の補正

1. 本工事は、夏季における真夏日などの気候状況を考慮し、工事現場の熱中症対策に掛かる経費に関して「熱中症対策に資する現場管理費の補正」を行う試行

工事である。

2. 真夏日の考え方は下記のとおりである。

(1) 真夏日の定義

日最高気温が 30℃以上の日を指す。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が 30℃以上の場合とする。

(2) 試行にあたっての真夏日の計上の考え方

下記①～③のいずれかに該当する場合、真夏日として計上する。

① 環境省が公表している暑さ指数（WBGT）が日最高 25℃以上の場合。

施工現場から最寄りの環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）が 25℃以上となる日を真夏日とみなす。

② 気象庁が公表している地上気象観測所の日最高気温が 30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温が 30℃以上の日を真夏日とする。

③ 夜間工事については、作業時間帯の最高気温が 30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの観測地点における作業時間帯の最高気温が 30℃以上、又は暑さ指数（WBGT）が 25℃以上の場合を真夏日とする。

なお、休工期においては、上記に該当した場合でも真夏日としない。

上記①～③によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

(3) 工期

工事着手から工事完成日までの期間を指す。なお、年末年始休暇 6 日間、夏季休暇 3 日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

(4) 基準日

受発注者協議により、「基準日」を定めるものとする。「基準日」は工事着手日を基本とする。

当該「基準日」より工期末までの期間のうち、真夏日にあたる日数を算出する。

なお、夏季休暇 3 日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、現場休工期は含まないものとする。

(5) 真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

$$\cdot \text{真夏日率} = \text{基準日から工期末までの真夏日} \div \text{工期}$$

(6) 現場管理費の補正

現場管理費の補正は、工期中の日最高気温の状況に応じて補正値を算出し、現場管理費率に加算する。なお、補正は変更契約において行うものとする。

$$\cdot \text{補正値}(\%) = \text{真夏日率} \times \text{補正係数} \times$$

※ 真夏日補正係数：1. 2

第38条 安全管理推進技術査等認定について

1. 概要

関東地方整備局（港湾・空港部・営繕部関係を除く）が発注した工事（以下、「直轄工事」という）において、無事故で完成させた技術者に対して、「安全管理推進技術者」（以下、「認定技術者」という）として認定する

2. 認定条件

対象とする技術者は、以下の条件によって認定する。

- ・直轄工事において、無事故にて完成させた「安全管理担当者」として、施工期間中、全ての工事（準備工を除く）に従事した者。なお、「安全管理担当者」とは、施工体制上、受注者が配置する「統括安全衛生責任者」、「元方安全衛生管理者」、「ずい道等救護技術管理者」、「店社安全衛生管理者」、「工事現場責任者」として安全管理に従事した者で、現場代理人または、主任（監理）技術者が兼務した場合も認定するものとする。
- ・直轄工事にて、認定技術者として過去5回認定された者については、「優秀安全管理推進技術者」（以下、「優秀認定技術者」という）として認定する。

3. 認定技術者の認証

- ・認定技術者及び優秀認定技術者に認定された者については、「安全管理推進技術者認定ロゴマーク」（以下、「認定ロゴマーク」という）を「企業の名刺」、「ヘルメット貼付」等を使用（印刷、シール）することができる。
- ・紛失等による認定書の再発行は行わない。
- ・「認定ロゴマーク」については、当該地方整備局管内で行う直轄工事のみに使用でき、それに要する費用は、当該企業が負担するものとする。

4. 認定技術者の認証期間

認定技術者へ授与した認証については、その使用期間に制限を設けないものとする。

5. 不適切事項への措置による認証の取り扱い

認定技術者が関係する工事にて、粗雑工事等の発覚より、関東地方整備局から措置（指名停止、文書注意、口頭注意）を受けた場合であっても、過去の認証の取り消しは行わない。ただし、工事完成後、安全管理に関して不適切な事象が発覚した場合、または、不正による認定取得が確認された場合については、認定を取り消す。

第39条 出水期間中の現場管理及び施工について

本工事における出水期間中の現場管理については、土木工事共通仕様書第1編「1-1-1-30 工事中の安全確保」に基づき、作業員、仮設物及び資機材等の退避及び流出防止等（以下「防災措置等」という。）必要な対策を講ずるものとする。

なお、上記については、土木工事共通仕様書第1編「1-1-1-6 施工計画書」に基づき、施工計画書に記載の上、設計審査会で確認したうえで、監督職員

に提出するものとする。

また、気象情報や河川水位の収集及び伝達方法等についても施工計画書に記載するものとする。なお、施工計画書に記載すべき標準的な項目については、別紙－6を参考にする。

防災措置に要する費用については第21条の設計変更ガイドラインに基づき設計変更の対象とする。

第40条 交通誘導警備員の資格

交通誘導警備員については、資格者（警備業法第23条に規定する都・県公安委員会の行う1級又は2級検定に合格した者）1名以上を充て、他は経験1年以上の者を配置すること。

なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第41条 架空線等上空施設の事故防止対策について

架空線等上空施設が工事現場内等にある場合は、関係法令並びに、「公衆災害防止マニュアル（河川部運用案）【架空線等上空施設編】（平成28年12月 関東地方整備局 河川部）」等を参考とし、公衆災害等の事故防止対策を実施するものとする。

なお、本マニュアルは関東地方整備局 HP＞河川＞技術情報に掲載している。

(<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/gijyutu/index00000000.html>)

第42条 特定調達品目の調達実績の調査

受注者は、本工事の資材、建設機械の使用にあたっては、必要とされる強度や耐久性、機能の確保等に留意しつつ、環境物品等の調達の推進に関する基本方針に定められた国土交通省の特定調達品目（以下、「特定調達品目」という）の使用を積極的に推進するものとする。設計図書に定めがあるものについて、特定調達品目への変更が可能である場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。ただし、東日本大震災の影響により、特定調達品目の使用が困難な場合には、監督職員と協議するものとする。

受注者は、特定調達品目の調達実績の集計を行い、工事完了後に、電子データにより監督職員に提出するものとする。集計の方法については、監督職員より指示する。

第43条 低騒音型建設機械の使用

受注者は、本工事において「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」（昭和62年3月30日建設省経機第58号）に基づき、低騒音型建設機械の使用原則を図られた場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。

第44条 ディーゼル車排出ガス規制に適合した車輛の使用

1. 受注者は、本工事現場で使用し又は使用される関係車輛（以下、本工事関係車輛という。）が、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県ディーゼル車排出ガス規制条例（以下、関係法令等という。）の適用を受ける場合は、これに適合した車輛を使用しなければならない。
2. 受注者は、本工事の施工に先立ち、本工事関係車輛の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車輛の使用」について、関係法令等の遵守を施工計画書に記載しなければならない。
3. 受注者は、本工事関係車輛にディーゼル車を使用する場合には、車検証等のコピーを保管し、本工事関係車輛を把握しなければならない。
4. 受注者は、取締りにより本工事関係車輛に違法行為等があった場合には、直ちに監督職員に報告しなければならない。
5. 受注者は、資機材の搬出入等において、資材納入業者に関係法令等を遵守させるものとする。

第45条 工事現場管理

受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

1. 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし柵装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載車輛、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
4. 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行った場合、さし柵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第46条 工事現場の現場環境改善

1. 現場環境改善として実施する内容は、下記のとおりとするが、現場条件等により実施が困難になった場合には、監督職員と協議するものとする。
 - (1) 仮設備関係 環境負荷の軽減を実施するものとする。
 - (2) 営繕関係 現場事務所の快適化を実施するものとする。
 - (3) 安全関係 盗難防止対策を実施するものとする。
 - (4) 地域連携 社会貢献を実施するものとする。
2. 現場環境改善については具体的な内容、実施時期について施工計画書に含め提出するものとする。
3. 主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策については、工事契約後、監督職員と協議するものとし、現場環境改善費（率）の50%を上限として

設計変更の対象とする。

第47条 工期

1. 本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間と実工事期間を合わせた全体工期を設定した工事であり、発注者が示した工事完了期限までの間で、受注者は工事の始期及び終期を任意に設定できる。なお、契約を締結するまでの間に、別紙様式ー16により、工事の始期及び終期を通知すること。

余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

全体工期：契約締結日の翌日から令和9年2月26日まで

※ 契約締結後において、工期の始期の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。なお、条件の変更がない場合において、契約時に設定した工期の変更は行わない。

2. 休日には、日曜日、祝日、年末年始休暇及び夏季休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。工期には、施工に必要な実日数（実働日数）に加えて以下の事項を見込んでいる。

①準備期間	40日間
②後片付け期間	20日間
③雨休率（実働工期日数に休日と天候等による作業不能日※を見込むための係数 実働日数×係数）	1.79

※雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日は以下の通りである。（当該工事の作業不能日ではない。）

イ) 1日の降雨・降雪量が10mm/日以上の日：28日間

ロ) 8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数：37日間（少数第1位を四捨五入（整数止め）し、日数換算した日数）

※猛暑日のみの日数：9日間

（過去5か年（2020年～2024年）の気象庁（府中観測所）及環境省（府中地点）のデータより年間の平均発生日数を算出（雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日））

3. 本工事の工期は出水期間を含んでいる。
4. 6月1日から10月31日を出水期間とし、河川区域及びその周辺で工事を行ってはならないが、下記に示す工種等においてはこの限りではない。なお、既存堤防の治水上の安全を下げないように留意すること。

・全工種

第48条 工事工程クリティカルパスの共有

受注者は、現場着手前（準備期間内）に設計図書等を踏まえた工事工程表（ク

リティカルパスを含む）を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者（「発注者」又は「受注者」）を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

- ① 受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合
- ② 著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合
- ③ 工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合
- ④ 資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
- ⑤ その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

第49条 工事工程表の開示の試行工事

1. 本工事は、工期設定の根拠とした工事に必要な関係機関との調整、住民合意、用地確保、法定手続きなどの進捗状況を踏まえた工事工程表を開示するとともに、設計審査会等において工事工程クリティカルパスの共有や発注者が作成する工程と受注者が作成する工事工程の照合（クロスチェック）を行うことにより、適切な工期設定の取組を行う「工事工程表の開示の試行工事」である。
2. 工事契約後、設計審査会等において、「前条 工事工程クリティカルパスの共有」により作成した工事工程表を確認し、受注者・発注者間でクリティカルパスの共有を行うものとする。
3. 設計審査会等において、発注者が開示した工事工程表（別紙－5）との照合（クロスチェック）を実施し、必要に応じて工期延伸の判断について審査を行うなど、適正な工事工程の確保に努めるものとする。
4. 本試行に関するアンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

第50条 週休二日の対応

1. 本工事は、監督職員と受注者双方が工程調整を行うことにより、完全週休2日（土日）を達成するよう工事を実施する「現場閉所による週休2日制適用工事（完全週休2日）（受注者希望方式）」の試行工事である。
受注者は、工事契約後、完全週休2日（土日）の取組を希望するか判断の上、発注者に協議するものとし、希望しない場合は月単位の週休2日に取組むものとする。
2. 週休2日の考え方は下記のとおりである。
 - 1) 週休2日
 - ①完全週休2日（土日）
対象期間内の全ての土日において、現場閉所を行ったと認められる状態をい

う。

受注者の責によらず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に土日に代わる現場閉所日（以下、「代替休日」という。）を設定することによって、土日に現場閉所を行ったとみなす。なお、週の定義は月曜日から日曜日までとする。

②月単位の週休2日

対象期間内の全ての月において、現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日/28日）以上となる現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

2) 対象期間

工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。

また、工事着手後、受注者の責によらず週休2日の実施が困難な期間が生じる場合は、受発注者間で協議して週休2日の対象外とする作業と期間を決定するとともに、変更契約時の設計図書に対象外とする作業と期間を明示する。ただし、対象外とする期間は災害対応等のやむを得ない期間に限定すること。

3) 現場閉所

巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。

3. 天候等を天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、1年単位の変形労働時間制を活用する場合は、1週40時間または1日8時間を超える労働時間を設定した月は、週休2日工事の対象期間外とする。また1年単位の変形労働時間制の活用について施工計画書に反映し、労働基準監督署へ提出した下記の資料を提出すること。

- ・ 1年単位の変形労働時間制を活用する労働者とその使用者が締結した労使協定
- ・ 変更した就業規則

4. 現場閉所を行うときは、監督職員へ事前に連絡すること。ただし、以下に該当する場合は、連絡は不要である。

①施工計画書に記載した法定休日・所定休日の場合

②週間工程会議等により監督職員が事前に把握している場合

③官公庁の休日の場合

完全週休2日（土日）の実施にあたり、受注者の責に寄らず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に代替休日を設定すること。な

お、夜間工事の場合は作業に着手した日を作業日とみなす。

また、天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、1年単位の変形労働時間制を適用し休日を振り替える場合には、振替前後の日にちが把握出来るよう施工計画書に記載しておくこと。

5. 監督職員は、受注者の月毎の現場閉所率の状況を適宜確認するものとし、受注者側の週休2日の取組状況が十分でない場合は、受発注者双方において要因を分析し、週休2日が確保できるよう改善に取り組むものとする。
6. 工事完了後、週休2日の取得結果が確認できる「取得報告書」を作成し、監督職員に提出するものとする。
7. アンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。
8. 明らかに受注者側に月単位の週休2日に取り組む姿勢が見られなかった場合については、内容に応じて、工事成績評定から点数を減ずる措置を行うものとする。
9. 週休2日に掛かる費用については、当初予定価格から完全週休2日（土日）を達成した場合の補正係数を労務費、市場単価、土木工事標準単価、共通仮設費率、現場管理費率に乗じているが、現場閉所の達成状況を確認後、完全週休2日（土日）が未達成の場合は、月単位の週休2日の補正係数に変更する。月単位の週休2日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。
完全週休2日（土日）の取組を希望しない場合は、月単位の週休2日の補正係数に変更する。また、現場閉所の達成状況を確認後、月単位の週休2日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

第51条 悪天候等により工期変更が必要となる場合の協議を簡素化する試行

1. 受注者は、著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生し、工期内に工事を完成することが困難な場合はその理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。
著しい悪天候とは、当該工事の工期月の雨休率が、直近5カ年における工期月の雨休率の平均値を超える場合をいう。
工期月とは、工事着手日から工事完成予定日までの期間のうちの、工期の延長変更請求時までにかかる月（ただし、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は除く）をいう。
なお、本工事の降雨降雪日は、府中観測所（気象庁のデータ）における1日の降雨・降雪量が10mm /日以上の日を想定している。
2. アンケート調査を行う場合は、これに協力すること。

第52条 他工事との調整

1. 下記工事の請負業者とは、現場が連続し施工が輻輳することから、施工手順・

工程については十分な打ち合わせを行い、工事の円滑な進捗に努めるものとする。

2. 本工事との調整工事は以下のとおりとする。

工事名	施工範囲	工期(予定)
R 7 多摩川西六 郷河道浚渫工事 (予定)	多摩川 6. 2k 付近 ～ 多摩川 6. 4k 付近	令和 8 年 4 月～令和 9 年 3 月

第 5 3 条 新技術の活用「新技術の定義」

1. 本工事は、新技術活用の促進を図ることを目的とした、新技術活用工事である。

2. 新技術の定義

新技術活用の原則化における新技術の定義は以下による。

- ①技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術
- ②公共工事等において実用段階に達している技術
- ③当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術
- ④実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であって国により導入促進を図る技術

3. 対象とする新技術

新技術活用の原則義務化の対象とする新技術は以下のとおりとする。

1) 新技術情報提供システム (NETIS) 登録技術

URL <http://www.netis.mlit.go.jp>

2) NETIS のテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術

3) 新技術導入促進 (Ⅱ) 型により活用する技術

4) 新技術のニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

対象とする技術は、NETIS「マッチング」に掲載された技術のうち、「標準化推進技術」「普及促進技術」のいずれかに該当するものとする。

なお、NETIS 掲載期間終了技術は対象外とする。

第 5 4 条 新技術の活用 (発注者指定型)

1. 本工事は、「発注者指定型」により下記新技術を活用する新技術活用工事である。

技術名 吸水性泥土改質材「ワトル」

NETIS 登録番号 TH-160010-VE

2. 当該技術の施工にあたっては、本特記仕様書によるほか「新技術情報提供システム (NETIS) URL <http://www.netis.mlit.go.jp>」に記載されている NETIS (評価情報) に留意するものとする。

3. 当該技術の施工にあたり疑義がある場合には、NETIS 申請者に確認のうえ監督職員と協議するものとする。
4. 発注者が指定する技術以外の新技術の活用については第55条 新技術の活用（施工者選定型）として取り扱う。
5. 前項により当該技術に係わる内容に変更が生じ、設計変更が必要となる場合は監督職員と協議するものとする。
6. 当該技術の施工において、当該技術に起因すると考えられる不具合が生じた場合は、監督職員に速やかに報告し協議を行うものとする。
7. 受注者は、当該技術の施工にあたり、情報種別記号「－V E」以外の NETIS 登録技術については「活用効果調査」を行うものとする。なお、「活用効果調査」は、「新技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。
8. 受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第55条 新技術の活用（施工者選定型）

1. 本工事は、施工者が原則1技術以上の新技術を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。
2. 本工事において、第53条 新技術の活用「新技術の定義」3. 対象とする新技術に示す1)～4)の技術が選定されていない場合、受注者は施工に先立ち、当該工事内容について十分把握の上、新技術を原則一つ以上選定し、監督職員の承諾を得た上で活用するものとし、活用する新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載するものとする。活用する新技術が NETIS 登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとする。
3. 受注者は、選定した新技術が第53条 新技術の活用「新技術の定義」3. 対象とする新技術に示す1)～4)のいずれの新技術であるか確認できるよう、施工計画書に記載する。
4. 当該技術については、設計図書等で定められた事項に係る部分でない場合は、設計変更の対象としない
5. 受注者は、試行現場照会中の技術を活用する場合において当該技術の施工にあたり NETIS 申請者が実施する「試行調査」に協力するものとする。なお、試行調査に係る費用は NETIS 申請者が負担する。
6. 試行現場照会中の技術を活用する場合、当該工事の実施箇所において標準的に使用される技術の施工費相当額を超える費用については、試行調査に係る費用とみなし、NETIS 申請者の負担とする。
7. 受注者は、活用する新技術が情報種別記号「－V E」以外の NETIS 登録技術の場合は、当該技術の施工にあたり「活用効果調査」を行うものとする。「活用効果調査」は、「新技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。

8. 受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第56条 建設現場における遠隔臨場の実施

1. 建設現場における遠隔臨場の実施

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものとする。

なお、遠隔臨場の実施にあたっては「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（案）R5.3」を参考に実施するものとする。

URL <https://www.mlit.go.jp/tec/content/001594449.pdf>

2. 遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

3. 実施内容

（1）段階確認・材料確認、立会での確認

- ① 受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」を行うものとする。
- ② 確認実施者が現場技術員の場合、現場技術員は使用する PC にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ等で記録し、情報共有システム（ASP）等に登録して保管する。（従来の立会資料の管理と同様とする。）

（2）動画撮影

動画撮影は、撮影者の安全を確保するため、撮影者が移動の際に横転等が考えられるいわゆる「歩きスマホ」（カメラを手に持って歩きながら撮影）での撮影はしないこと。

動画撮影は、静止して撮影又は撮影者のヘルメットや胸ポケットに付ける等の安全に配慮するものとする。

（3）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し決定するものとする。

なお、配信に利用するシステムは、「パッケージ化したシステム」、「情報共有システム（ASP）」、「Web 会議システム（teams、zoom 等）」等、何れのシステムを利用してよい。

（4）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注

者間で協議を行うものとする。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。

なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

(5) フォローアップ調査

工事完了時に別紙様式-19を監督職員へ提出するものとする。

また、遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示によるものとする。

(6) 費用

遠隔臨場にかかる費用については、工事实施に必要な施工管理費として、全必要額を技術管理費に積み上げ計上し、設計変更するものとする。

なお、機器の手配は基本的にリースとし、その賃料を計上するものとするが、やむを得ず購入せざるを得ない機器がある場合は、その購入費に、機器の耐用年数に対する使用期間（日単位）割合を乗じた分を計上するものとする。

また、受注者が所持する機器を使用する場合も、基本的には同様の考え方とするものとする。

(7) 不正行為

遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、「建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和5年3月3日（国不建第578号）」等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第57条 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

1. 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

「遠隔臨場を活用した工事検査」は、受注者における「工事検査に伴う移動時間の削減や工事関係書類の簡素化」や発注者（監督職員・検査職員）における「現場実地（現場臨場）の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360度カメラ等）とWeb会議システム等を介して工事实施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査項目を遠隔で行うものである。なお、遠隔臨場による工事検査は、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』の内容に従い実施する。

2. 遠隔臨場を活用した工事検査の対象

遠隔臨場を活用した工事検査は、完成検査、中間技術検査、既済部分検査、完済部分検査における、工事实施状況、出来形、品質、出来ばえの各検査項目を対象とし、以下の表に示す。また、全ての検査を対象とするが、現場条件や、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』『7.3 検査項目の適応性』を踏まえ、従来方法（対面書類検査、現場実地検査）を選択することも可能である。

凡例 ○：遠隔臨場による工事検査の対象

	工事実施 状況	出来形		品質		出来ばえ	
	書類	書類	実地	書類	実地	書類	実地
完成検査	○	○	○	○	○	○	○
中間技術検査	○	○	○	○	○	○	○
既済部分検査	○	○	○	○	○	○	○
完済部分検査	○	○	○	○	○	○	○

3. 遠隔臨場を活用した工事検査を適用する検査項目

現場条件により遠隔臨場による工事検査の適応性が一致しない場合も想定されることから、検査項目での適用・不適用については、監督職員が検査職員と調整・決定し、受注者に遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目を連絡する。遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目については、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ判断する。

4. 実施内容

(1) 技術検査、工事検査での実施

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査を実施するものである。

(2) 機器の準備

遠隔臨場による工事検査に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員と協議し決定するものとする。

(3) 遠隔臨場による工事検査を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場による工事検査が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で予備日を取り決めて検査日を連絡する。

(4) 効果の検証

遠隔臨場による工事検査を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

(5) 費用

遠隔臨場による工事検査にかかる費用については、受発注者間の協議を踏まえ、技術管理費に積上げ計上する。なお、監督業務で遠隔臨場を実施する工事については、遠隔検査を行うために追加で要する費用が生じた場合に監督職員と協議するものとする。

(6) 不正行為

遠隔臨場による工事検査において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和 3 年 9 月 30 日（国不建第 273 号）』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第58条 契約後V E方式

1. 定義

「V E提案」とは、契約書第19条の2の規定に基づき、設計図書に定める工事の目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に行う提案である。

2. V E提案の意義及び範囲

1. 受注者がV E提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のものとする。
2. 以下の提案は、V E提案の範囲に含まないものとする。
 - (1) 施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。
 - (2) 契約書第18条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。
 - (3) 提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。

3. V E提案書の提出

1. 受注者は、前項のV E提案を行う場合は、次に掲げる事項をV E提案書(別紙様式-1~4)に記載し、発注者に提出しなければならない。
 - (1) 設計図書に定める内容とV E提案の内容の対比及び提案理由
 - (2) V E提案の実施方法に関する事項(当該提案に係る施工上の条件等を含む)
 - (3) V E提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額及び算出根拠
 - (4) 発注者が別途発注する関連工事との関係
 - (5) 工業所有権等の排他的権利を含むV E提案である場合、その取扱いに関する事項
 - (6) その他V E提案が採用された場合に留意すべき事項
2. 発注者は、提出されたV E提案書に関する追加的資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。
3. 受注者は、前項のV E提案を契約の締結日より、当該V E提案に係る部分の施工に着手する35日前までに、発注者に提出できるものとする。
4. V E提案の提出費用は、受注者の負担とする。

4. V E提案の審査

提出されたV E提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ設計図書に定める工事の目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、V E提案として採用することを原則として審査を行い、当該提案の採否を決定するものとする。

5. V E提案の採否等

V E提案の採否について、原則として、V E提案の受領後14日以内に書面(別紙様式-5)により通知するものとする。ただし、受注者の同意を得た上でこの期間を延長することができるものとする。また、V E提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。

6. VE提案を採用した場合の設計変更等

1. VE提案を採用した場合において、必要があるときは、発注者は設計図書の変更を行わなければならない。
2. 前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、発注者は、必要があるときは請負代金額を変更しなければならない。
3. 前項の変更を行う場合においては、VE提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の5に相当する金額(以下「VE管理費」という。)を削減しないものとする。
4. VE提案を採用した後、契約書第18条の条件変更が生じた場合、発注者がVE提案に対する変更案を求めた場合、受注者はこれに応じるものとする。なお、VE管理費については、原則として変更しないものとする。

7. VE提案の活用と保護

評定の結果、当該VE提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るものとする。その場合、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、当該権利の保護に留意するものとする。

8. 責任の所在

発注者がVE提案等を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、VE提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。

第59条 生産性向上チャレンジ工事

1. 試行の実施

本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組みを推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。

2. 試行の内容

工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組みを実施することができる。

本取組みを実施する場合は、施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組内容、②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等について、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。

なお、「技術提案で提案済みの内容」及び「特記仕様書第53条 新技術の活用「新技術の定義」」において採用した取組については本試行の対象外とする。

3. 工事成績評定

施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。

4. 本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。

第 6 0 条 出来高部分払方式

本工事の部分払は、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施し、円滑かつ速やかな工事代金の流通を確保することによって、より双務性及び質の高い施工体制の確保を目指すため、「出来高部分払方式実施要領」〔国土交通省 HP https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html 参照〕に基づき行うものとする。

第 6 1 条 直轄土木工事における賃金・労働時間等の実態調査（試行）（受注者希望方式）

1. 本工事は、受注者の協力の下、賃金・労働時間・労務費（以下「賃金・労働時間等」という。）の実態を調査する試行工事である。
2. 受注者は、契約締結後、賃金・労働時間等の実態調査に協力する意向がある場合には、実態調査に協力する工種・種別・細別（以下、「工種等」という。）を発注者へ報告するものとする。
3. 発注者は、実態調査に協力する工種等の報告を受けた工種等より調査対象を選定するとともに、調査対象工種等の施工が完了した後、受注者は、別途監督職員より通知される実態調査要領に基づき資料を提出するものとする。
4. 発注者は、提出された資料をもとに賃金、労働時間等の実施率・達成率を算出後、積算上の作業時間を示した資料を提出するとともに、賃金、労働時間等の実施率・達成率を工事完成検査後に受注者、下請業者（注文者）、下請業者（使用者）に通知するものとする。

第 6 2 条 現場技術員

本工事は、現場技術員の配置対象工事であり、現場技術業務を建設コンサルタント等に委託する予定としている。

第 6 3 条 施工体制調査員

本工事は、現場における施工体制の点検補助を建設コンサルタント等に委託する予定としている。

また、本工事の施工体制の点検を担当する施工体制調査員の氏名は、別途監督職員より通知する。

なお、施工体制調査員は、工事の情報共有システム（ASP）により電子書類を閲覧し、点検を行うため、施工体制調査員を情報共有システム（ASP）のユーザーに登録するものとする。（「閲覧のみ可能」で登録）

第 6 4 条 施工体制の点検

1. 受注者は「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成 12 年法律第 127 号 最終改正令和 6 年 12 月 13 日）第 15 条 3 により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならな

い。

2. 施工体制の点検員は当該工事の監督職員、施工体制調査員及び発注担当事務所の職員である。
3. 施工体制調査員は、業務証明書を携帯し、胸に委託業務名、委託先、業務職（施工体制調査員）、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
4. 当該工事の監督職員及び発注担当事務所の職員は、所属、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
5. 施工体制調査員は、施工体制の点検を行う者で、指示等の権限は有しない。
6. 施工体制調査員は、電子書類の点検を工事の情報共有システム（ASP）により「閲覧」し、点検する。
7. 施工体制調査員は、第1回目の現地点検は現地で点検するが、以降の点検は、映像により点検が可能な項目は、必要に応じ、工事の受注者が導入しているWEB会議や遠隔臨場システムを活用し、点検することを可能とする。
ただし、立会や打合せ等においてWEB会議や遠隔臨場システムを導入していない工事や現地での点検を希望する工事は、従来通り、現地で点検する。

第65条 工事完成図書の納品

1. 本工事は電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「工事完成図書の電子納品等要領(令和5年3月)：(以下「要領」という。)」に基づいて作成した電子データを指す。
「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する。
なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】(令和6年3月)」を参考とするものとする。
2. 本工事は「オンライン電子納品実施要領」に基づき、オンライン電子納品を行うものとする。
オンライン電子納品は、発注者が用意した電子納品保管管理サーバへのオンラインによる納品を原則とする。
なお、オンラインによる納品が実施できない場合は、監督職員と協議の上、電子媒体に格納して納品するものとする。
3. 成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施したうえで提出すること。

第66条 書類限定検査

1. 本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と技術検査官の重複確認廃止の徹底及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「書類限定検査」の対象である。

2. 書類限定検査とは、検査時に下記の10書類に限定して資料検査を行うものとする。

①施工計画書	⑥出来形管理図表
②施工体制台帳（下請引取検査書類を含む）	⑦品質管理図表
③工事打合せ簿（協議）	⑧品質規格証明資料
④工事打合せ簿（提出）	⑨品質証明書
⑤工事打合せ簿（承諾）	⑩工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

- ・「低入札価格対象工事」又は「監督体制強化工事」は対象外
- ・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事は対象外

3. 実施状況や改善点等を把握するためのアンケートに協力する。

第67条 ウイルス対策

受注者は、電子納品時のみならず、監督職員に工事に関する事項について電子データを提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出しなければならない。また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）しなければならない。

第68条 無人航空機を使用する際の情報流出防止策

1. 本業務（工事）において、無人航空機を使用する場合には、以下に掲げるような情報流出防止策を講じること。ただし、本業務（工事）が、「政府機関等における無人航空機の調達等に関する方針について」（令和2年9月14日、関係省庁申合せ）に示す重要業務に該当しないことが明らかであって、業務（工事）の性質に応じて当該策を講じることが困難な場合、調査職員（監督職員）と協議の上、可能な限りの策を講じた上で、当該策を講じないことができるものとする。

ア インターネットへの接続については、ソフトウェアアップデート等に必要な最小限度とし、飛行中は接続しない。

イ インターネットに接続する場合も、データが流出しないよう、撮影動画等のクラウドへの保存機能を停止する、機体内部や外部電磁的記録媒体に保存されている飛行記録データや撮影動画等を飛行終了後確実に消去する。

2. 前項の情報流出防止策によって業務（工事）の実施等に支障が生じる恐れがある場合は、調査職員（監督職員）と協議すること。

第69条 標高成果の改定

本工事の図面は、旧標高（測地成果2011）で作成しているが、施工にあたっては新標高（測地成果2024）を用いるものとする。

工事測量で使用する距離標の基準点の標高成果は水準点標高に準拠しているため、標高補正パラメータによる測地成果2024への補正計算においては、国土地

理院より提供されている「測地成果 2024 移行のための水準点標高補正パラメータ (hyokorevBM_jgd2024_h.par) を用いるものとする。(国土地理院 HP:
https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/hyoko2024rev_param.html)

なお、補正計算結果については、監督職員と協議するものとする。

これにより難い場合又は、新標高換算にあたり確認事項がある場合は、必要に応じて、監督職員と協議するものとする。

第2章 個人情報の取り扱いについて

(基本的事項)

第70条 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第2項第1号の規定に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない

(秘密の保持)

第71条 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(取得の制限)

第72条 受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

(利用及び提供の制限)

第73条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

(複写等の禁止)

第74条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(再委託の禁止)

第75条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）には、受注者は当該第三者に対して、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月

30 日法律第 57 号) 第 66 条第 2 項第 4 号に基づく個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じさせなければならない。

(事案発生時における報告)

第 7 6 条 受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(資料等の返却等)

第 7 7 条 受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。なお、発注者の指示又は承諾により個人情報が記録された資料等を複写等した場合には、確実にそれらを廃棄又は消去するとともに、証明書(別紙ー 2)を発注者に提出しなければならない。

2 前項の規定は、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合(二以上の段階にわたる委託を含む。)において準用する。

(管理の確認等)

第 7 8 条 発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

(管理体制の整備)

第 7 9 条 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

(従事者への周知)

第 8 0 条 受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

第3章 土工

第81条 掘削工

1. 施工にあたっては、漁業協同組合と調整が必要であり、受注者は協力するものとする。調整の内容は、工事内容説明後の漁協からの意見等に対する調整等を予定している。なお、調整の内容によっては設計変更の対象とする。
2. 掘削した土砂は、不整地運搬車にて場内仮置場まで運搬するものとする。（運搬距離 L=50m 以下）場内仮置場にてダンプトラックに積み換え多摩川左岸 6.4k 付近に運搬し（運搬距離 L=1.5km 以下）、曝気・仮置きするものとする。
3. 曝気・仮置き後の土砂のうち、粘性土については土砂分別のうえ、関戸 SY（東京都多摩市関戸 3 丁目付近）（運搬距離 31.5km 以下）まで運搬・整地するものとする。砂質土については多摩川二丁目緊急船着場（東京都大田区多摩川二丁目付近）（運搬距離 3.5km 以下）まで運搬し、台船へ積替えを行うものとする。その後、東京空港整備事務所浅場造成事業まで運搬するものとする。
4. 本工事の作業時間は、下記によるものとする。

作業区分	施工区分	標準作業時間
昼間作業	全工種	8 : 00 ~ 17 : 00

また、潮位等の影響により、これにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。

なお、上記については、積算上の条件明示であり、作業時間を指定するものではない。

第82条 土砂分別工

1. 土砂分別の対象は地山を基本とする。
2. アシやヨシ等の根茎が混在する掘削土については土砂分別を行い、根茎類を除去するものとし、発生した草本、根茎類らについては、本工事にて処理するものとする。処理については監督職員と協議のうえ設計変更の対象とする。
3. 土砂分別工を施工するにあたり、以下のとおり改良材の添加を想定している。
 - ・添加量 : 110 kg/m³（事前改良時 : 60kg/m³、土砂分別時 : 50kg/m³）
 - ・添加材 : 吸水性泥土改質材「ワトル」
 - ・コーン指数 : $q_c = 200 \text{ kN/m}^2$ただし掘削土の仮置後に含水比を確認し、試験施工を実施のうえ、監督職員との協議により、添加量を決定するものとする。
4. 土砂分別時に廃棄する廃棄物は、管理型混合廃棄物としての廃棄を想定している。

第83条 建設発生土の受け入れ地

1. 掘削土（平均潮位以下の砂質土）は、下記に指定した受入地に確実に搬入し、運搬中において漏出が無いように十分注意するものとする。運搬に先立ち、受入条件について受入先に確認を行い、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。なお、受入期間について変更が生じた場合は監督職員から指示を行う。

【平均潮位以下の砂質土（東京空港整備事務所浅場造成事業）】

- ・受入地：東京航空整備事務所浅場造成事業（運搬距離 河川内 9.0～11.5km、港湾内 11.0km）
 - ・受入期間：令和8年10月頃から令和9年2月頃まで
 - ・受入時間：午前10時00分～午後4時00分
 - ・休日：土曜日、日曜日及び祝日
 - ・受入費用：不要
2. 搬出調書を作成し、監督職員に提出しなければならない。
 3. 工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

受注者は、本工事から建設発生土を100m³以上搬出する場合は、別紙様式－8により搬出前に搬出先市区町村の建設発生土担当窓口あてに建設発生土に関する下記の情報を郵送・FAX等で提出しなければならない。

なお、情報提供後速やかにその写しを監督職員に提出しなければならない。

- ① 工事件名、工事概要、工事場所
- ② 工事発注機関名、工事発注機関監督職員名、連絡先
- ③ 工事請負業者名、現場代理人名、連絡先
- ④ 建設発生土の運搬業者名
- ⑤ 建設発生土の受入先名（搬出先事業所名等）、住所
- ⑥ 建設発生土の発生場所から受入地までの運搬経路
- ⑦ 建設発生土の搬出時期（搬出期間）
- ⑧ 建設発生土の土質（砂、ローム等）、土量(m³)

第84条 建設副産物の受入地

本工事の準備工に伴い発生する幹については、関係法令等に基づき適切に処理しなければならない。

なお、処理については、下記施設を見込んでいる。

廃棄物の種類	施設の名称	所在地	受入時間
幹	（有）高興	東京都八王子市 高月町 515	8：30～17：30

上記については、積算上の条件明示であり、処理方法、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理方法、処理施設と異なる場合でも設計変更の対象としない。ただし、現場条件に変更が生じた場合等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限

りではない。

第4章 一般施工

第85条 運搬道路工

1. 曝気ヤードから多摩川二丁目緊急船着場の運搬道路については、過年度工事で敷設した工事用道路を利用するものとする。
2. 過年度工事で敷設した運搬道路について不陸が生じた場合は監督職員の立会のもと補修を行えるものとする。
3. 上記の工事用道路については、今後別工事において使用するため工事完了後も残置するものとする。
4. 河道掘削作業期間中は、汚濁防止フェンスを設置するものとする。汚濁流出が確認された場合は、監督職員に報告するものとする。

第86条 航路における障害物件

1. JR橋梁付近の航路の一部において、支障物件（天端高 A.P. -1.5m）が確認されている。当該箇所の航行にあたっては十分に注意するものとする。なお、航行にあたって対策が必要となった場合は監督職員と協議するものとする。
2. 工事用船舶の運航にあたって、船行に生じる航路上の現地条件が確認された場合は、監督職員と協議するものとする。
3. 詳細については監督職員より指示をするものとする。

第87条 土質・土壌試験

1. 採取した試料を別表-1に基づき底質分析を行い、基準値の判定を行うものとする。

試験項目番号（別表-1に対応）	検体数
1～40（別表-1）	2

第88条 仮設工

1. 工事の仮設にあたっては、現地の状況を十分把握し、安全性、経済性、細部構造等については受注者において十分検討を行い、受注者の責任において決定し、施工するものとする。
2. 工事用搬入路は多摩川左岸 5.4k 付近及び多摩川左岸 7.6k 付近坂路から進入することを想定している。
詳細については、監督職員と協議するものとする。
3. 多摩川左岸 7.6k 付近の工事用道路については、河川利用者に配慮し安全設備を設置するものとする。
4. 多摩川左岸 7.6k 付近の工事用道路については、河川利用者に配慮し安全設備を設置するものとする。

詳細については、監督職員と協議するものとする。

5. 工事用道路に設置する土木シートの処分について、詳細は監督職員と協議するものとする。

6. 本工事での仮設工は、下表のとおり数量を見込んでいる。

名称	規格	施工箇所	数量	備考
敷鉄板	22×1524×6096	掘削箇所	32 枚	設置・撤去
敷鉄板	22×1524×6096	曝気・分別ヤード	110 枚	設置・撤去
敷鉄板	22×1524×6096	河川敷横断道路	111 枚	設置・撤去
敷鉄板	22×1524×6096	多摩川二丁目緊急船着場	65 枚	設置・撤去
汚濁防止フェンス	単独7ポート (2m×20m 1000 以上 2000 未満)	掘削箇所	420m	設置・撤去

7. 現場条件等により、設計および施工方法に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第 89 条 河川環境への配慮

本工事の施工箇所及びその周辺では、5 月から 8 月中旬の期間において野鳥の営巣が確認されていることから、工事着手時期等詳細については監督職員と協議するものとする。

第 90 条 関係機関協議

1. 既設の車止め撤去及びガードレール復旧にあたっては、大田区と協議のうえ、受注者が施工計画書を区に説明完了後、協議成立とする。
2. 土砂の搬出にあたっては、多摩川緑地及び多摩川大橋緑地の一部を使用するため、占有者と調整するものとする。

なお、占有箇所については下記のとおりである。

占有箇所	
多摩川緑地（河川敷横断道路）	大田区西六郷四丁目地先
多摩川大橋緑地（多摩川二丁目緊急船着場）	大田区多摩川二丁目地先

第 5 章 無筋・鉄筋コンクリート

第 91 条 レディーミクストコンクリート

1. コンクリートは、レディーミクストコンクリートを原則とし、下記の仕様によるものとする。

用途	粗骨材の 最大寸法	スランプ	水セメント比	呼び強度	セメントの 種類
----	--------------	------	--------	------	-------------

付帯道路工	25mm (20)	8cm	指定なし	18N/mm ²	高炉セメント
-------	--------------	-----	------	---------------------	--------

ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

2. コンクリートの耐久性向上の対策は「コンクリートの耐久性向上」仕様書(土木編)(平成14年8月一部改正)により行うものとする。

第6章 その他

第92条 震災対策

1. 地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。
2. 地震注意情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保全措置等を講ずるものとする。

第93条 地震発生後の建設工事現場の点検について

地震発生後の建設工事現場の点検実施及び報告時期については、以下によるものとする。

- ① 気象庁地震計で震度4の地震が発生した場合。

イ) 現場稼働日(開庁日)の夜間に発生した場合には、翌現場稼働日(開庁日)の始業時に点検。異常があった場合は直ちに監督職員に報告。異常が無い場合は、開庁日に速やかに監督職員へ報告。

ロ) 現場休工期(閉庁日)に発生した場合には、翌現場稼働日(開庁日)の始業時に点検。異常があった場合は直ちに監督職員に報告。異常が無い場合は、開庁日に速やかに監督職員へ報告。

※開庁日に現場が休工期であった場合は開庁日を優先して判断し建設工事現場の点検を行うこと。

- ② 気象庁地震計で震度5弱以上の地震が発生した場合。

夜間・現場休工期(休祭日)に関わらず直ちに点検。点検結果については、速やかに監督職員へ報告。

第94条 工事現場における説明性の向上

受注者は、事業名、事業の目的・内容・効果、工事名、工事内容、連絡先を記した工事説明書を作成し、近隣住民等から事業内容等の説明を求められた場合は、工事の安全確保に支障のない範囲において、当該工事説明書を配布する等、工事現場の説明性の向上を図るものとする。

また、受注者は、工事現場作業員に対し、工事内容及び事業目的・効果を周知するものとする。

第95条 特定外来生物の対応

本工事施工にあたり、工事区域内で「特定外来生物による生態系等に係る被害

の防止に関する法律」による特定外来生物が確認された場合は、速やかに監督職員に報告するものとし、対応については監督職員の指示によるものとする。

第 9 6 条 完成図

1. 工事完成図を下記により作成し、監督職員に提出するものとする。
2. 表紙は、茶色 #583822（令和 8 年度）としダイヤスカーフまたはこれと同等品以上のものとする。また、文字は白字とする。
3. 完成図の提出部数は、3 部（A-4 版）とする。

明示項目及び明示事項

明示項目	明示事項	記載条項
工程関係	■ 他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工事等に影響がある場合は、影響箇所及び他の工事の内容、開始又は完了の時期。 ■ 施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合は、制限される施工内容、施工時期、施工時間及び施工方法。 ■ 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容、成立見込み時期。 □ 関係機関、自治体等との協議の結果、特定された条件が付され当該工事の工程に影響がある場合は、その項目及び影響範囲。 ■ 余裕工期を設定して発注する工事については、工事の着手時期。 □ 工事着手前に地下埋設物及び埋蔵文化財等の事前調査を必要とする場合は、その項目及び調査期間。又、地下埋設物等の移設が予定されている場合は、その移設期間。 ■ 設計工程上見込んでいる休日日数等作業不能日数。	第52条 第89条 第90条 第47条 第47条
用地関係	□ 工事用地等に未処理部分がある場合は、その場所、範囲及び処理の見込み時期。 □ 工事用地等の使用終了後における復旧内容。 □ 工事用仮設道路・資機材置き場用の借地をさせる場合、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等。 □ 施工者に、消波ブロック、桁製作等の仮設ヤードとして官有地等及び発注者が借り上げた土地を使用させる場合は、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等。	
公害関係	■ 工事に伴う公害防止（騒音、振動、粉塵、排出ガス等）のため、施工方法、建設機械・設備、作業時間等を指定する必要がある場合は、その内容。 □ 水替・流入防止施設が必要な場合は、その内容、期間。 □ 濁水、湧水等の処理で特別の対策を必要とする場合は、その内容（処理施設、処理条件等）。 □ 工事の施工に伴って発生する騒音、振動、地盤沈下、地下水の枯渇等、電波障害等に起因する事業損失が懸念される場合は、事前・事後調査の区分とその調査時期、未然に防止するために必要な調査方法、範囲等。	第43、44条
安全対策関係	□ 交通安全施設等を指定する場合は、その内容、期間。 □ 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事での施工方法、作業時間等に制限がある場合は、その内容。 □ 落石、雪崩、土砂崩落等に対する防護施設が必要な場合は、その内容。 ■ 交通誘導員、警戒船及び発破作業等の保全設備、保安要員の配置を指定する場合又は発破作業等に制限がある場合は、その内容。 □ 有毒ガス及び酸素欠乏等の対策として、換気設備等が必要な場合は、その内容。	第36条
工事用道路関係	一般道路を搬入路として使用する場合 ■ 工事用資機材等の搬入経路、使用期間、使用時間帯等に制限がある場合は、その経路、期間、時間帯等。 □ 搬入路の使用及び使用後の処置が必要である場合は、その処置内容。 仮道路を設置する場合。 ■ 仮道路に関する安全施設等が必要である場合は、その内容、期間。 □ 仮道路の工事終了後の処置（存置又は撤去）。 □ 仮道路の維持補修が必要である場合は、その内容。	第88条 第88条
仮設備関係	□ 仮土留、仮橋、足場等の仮設備を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合は、その内容、期間、条件等。 □ 仮設備の構造及びその施工方法を指定する場合は、その構造及びその施工方法 □ 仮設備の設計条件を指定する場合は、その内容。	

明示項目	明示事項	記載条項
建設副産物関係	■ 建設発生土が発生する場合は、残土の受入場所及び仮置き場所までの距離、時間等の処分及び保管条件。 □ 建設副産物の現場内での再利用及び減量化が必要な場合は、その内容。 ■ 建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場等の処理条件。 なお、再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合は、その受入場所、距離、時間等の処分条件。	第83条 第84条
工事支障物件等	■ 地上、地下等の占用物件の有無及び占用物件等で工事支障物が存在する場合は、支障物件名、管理者、位置、移設時期、工事方法、防護等。 □ 地上、地下等の占用物件工事と重複して施工する場合は、その工事内容及び期間等。	第86条
薬液注入関係	□ 薬液注入を行う場合は、設計条件、工法区分、材料種類、施工範囲、削孔数量、削孔延長及び注入量、注入圧等。 □ 周辺環境への調査が必要な場合は、その内容。	
その他	□ 工事用資機材の保管及び仮置きが必要である場合は、その保管及び仮置き場所、期間、保管方法等。 ■ 工事現場発生品がある場合は、その品名、数量、現場内での再使用の有無、引き渡し場所等。 ■ 支給材料及び貸与品がある場合は、その品名、数量、品質、規格又は性能、引渡場所、引渡期間等。 □ 関係機関・自治体等との近接協議に係る条件等その内容。 □ 架設工法を指定する場合は、その施工方法及び施工条件。 □ 工事用電力等を指定する場合は、その内容。 ■ 新技術・新工法・特許工法を指定する場合は、その内容。 □ 部分使用を行う必要がある場合は、その箇所及び使用時期。 □ 給水の必要のある場合は、取水箇所・方法等。	第25条 第24条 第54条

別紙—5

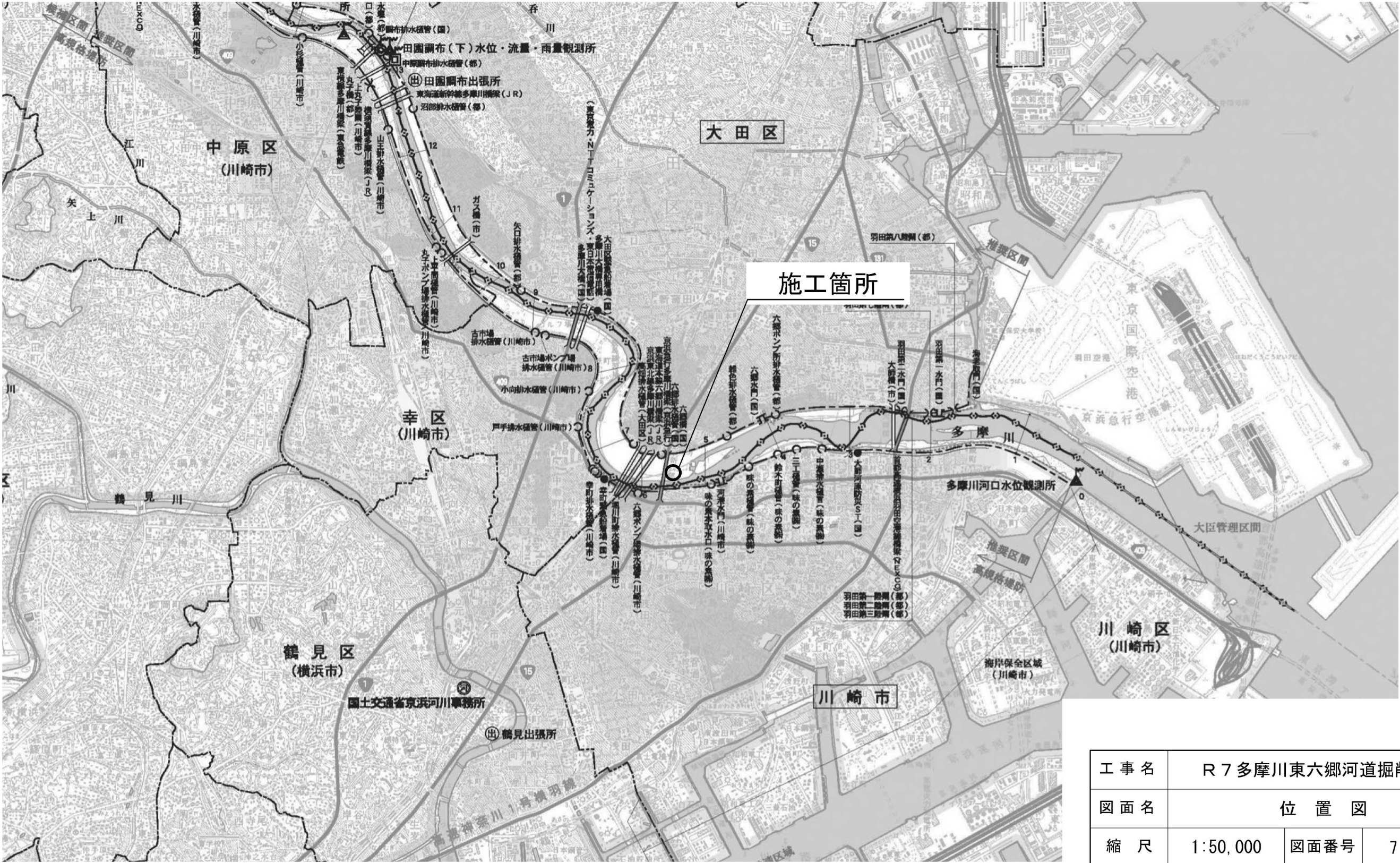
工 種		単位	数 量	令和8年度					令和9年度		備考
				8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
準備		式	1								・40日間
海岸土工		式	1								
掘削工		m3	8,800								1pt
土砂分別・運搬工		m3	5,000								1pt
作業船運転工		式	1								1pt
構造物撤去工		式	1								
付帯道路工		式	1								
仮設工		式	1								1pt
後片付け		式	1								・20日間
	関係機関協議	—									・漁協共同組合調整
	年末年始、お盆	—									・12月下旬～1月上旬 ・8月中旬
	出水期間	—									・6月1日から10月31日まで

別表－1

底 質 分 析			
試験項目		判定基準	検体数
〔溶出試験〕			
1	アルキル水銀化合物	アルキル水銀化合物につき検出されないこと	2
2	水銀又はその化合物	検液 1 ㍺につき水銀0.005mg以下	2
3	カドミウム又はその化合物	検液 1 ㍺につきカドミウム0.03mg以下	2
4	鉛又はその化合物	検液 1 ㍺につき鉛0.1mg以下	2
5	有機リン化合物	検液 1 ㍺につき有機リン化合物1mg以下	2
6	六価クロム化合物	検液 1 ㍺につき六価クロム0.2mg以下	2
7	ひ素又はその化合物	検液 1 ㍺につきひ素0.1mg以下	2
8	シアン化合物	検液 1 ㍺につきシアン1mg以下	2
9	P C B	検液 1 ㍺につき P C B 0.003mg以下	2
10	銅又はその化合物	検液 1 ㍺につき銅3mg以下	2
11	亜鉛又はその化合物	検液 1 ㍺につき亜鉛2mg以下	2
12	ふっ化物	検液 1 ㍺につきふっ素15mg以下	2
13	トリクロロエチレン	検液 1 ㍺につきトリクロロエチレン0.1mg以下	2
14	テトラクロロエチレン	検液 1 ㍺につきテトラクロロエチレン0.1mg以下	2
15	ベリリウム又はその化合物	検液 1 ㍺につきベリリウム2.5mg以下	2
16	クロム又はその化合物	検液 1 ㍺につきクロム2mg以下	2
17	ニッケル又はその化合物	検液 1 ㍺につきニッケル1.2mg以下	2
18	バナジウム又はその化合物	検液 1 ㍺につきバナジウム1.5mg以下	2
19	ジクロロメタン	検液 1 ㍺につきジクロロメタン0.2mg以下	2
20	四塩化炭素	検液 1 ㍺につき四塩化炭素0.02mg以下	2
21	1,2-ジクロロエタン	検液 1 ㍺につき1,2-ジクロロエタン0.04mg以下	2
22	1,1-ジクロロエチレン	検液 1 ㍺につき1,1-ジクロロエチレン1mg以下	2
23	シス-1,2-ジクロロエチレン	検液 1 ㍺につきシス-1,2-ジクロロエチレン0.4mg以下	2
24	1,1,1- トリクロロエタン	検液 1 ㍺につき1,1,1-トリクロロエタン3mg以下	2
25	1,1,2- トリクロロエタン	検液 1 ㍺につき1,1,2-トリクロロエタン0.06mg以下	2
26	1,3- ジクロロプロペン	検液 1 ㍺につき1,3-ジクロロプロペン0.02mg以下	2
27	チウラム	検液 1 ㍺につきチウラム0.06mg以下	2
28	シマジン	検液 1 ㍺につきシマジン0.03mg以下	2
29	チオベンカルブ	検液 1 ㍺につきチオベンカルブ0.2mg以下	2
30	ベンゼン	検液 1 ㍺につきベンゼン0.1mg以下	2
31	セレン又はその化合物	検液 1 ㍺につきセレン0.1mg以下	2
32	1,4-ジオキサン	検液 1 ㍺につき1,4-ジオキサン0.5mg以下	2
33	油分	検液 1 ㍺につき油分15mg以下	2
34	ダイオキシン類	検液 1 ㍺につきダイオキシン類10pg-TEQ/㍺以下	2
〔含有量試験〕			
35	総水銀	検体 1 kgにつき総水銀30mg以下	2
36	P C B	検体 1 kgにつき P C B 10mg以下	2
37	有機塩素化合物	検体 1 kgにつき塩素40mg以下	2
38	ダイオキシン類	検体1gにつきダイオキシン類150pg-TEQ/g以下	2
〔一般〕			
39	強熱減量	1 検体につき20％未満	2
〔放射性物質濃度〕			
40	セシウム-134及びセシウム-137	10Bq/kg以下（検出下限値：10Bq/kg）	2

※1：浚渫土砂の土質試験結果は、発生場所ごとに添付。

位置図 S=1:50,000



工 事 名		R 7 多摩川東六郷河道掘削工事					
図 面 名		位 置 図					
縮 尺		1:50,000		図面番号		7 の 1	
年 月 日		令和 8 年 1 月 日					
所長	副所長	課長		専門調査官		設計	
事務所名		国土交通省 京浜河川事務所					

平面図

S=1:2000

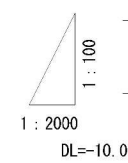


凡例
: 掘削範囲
: 施工済

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7 多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	平面図		
縮尺	1:2000	図面番号	7 の 2
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名	いであ株式会社		
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

SV=1: 100
SH=1: 2000



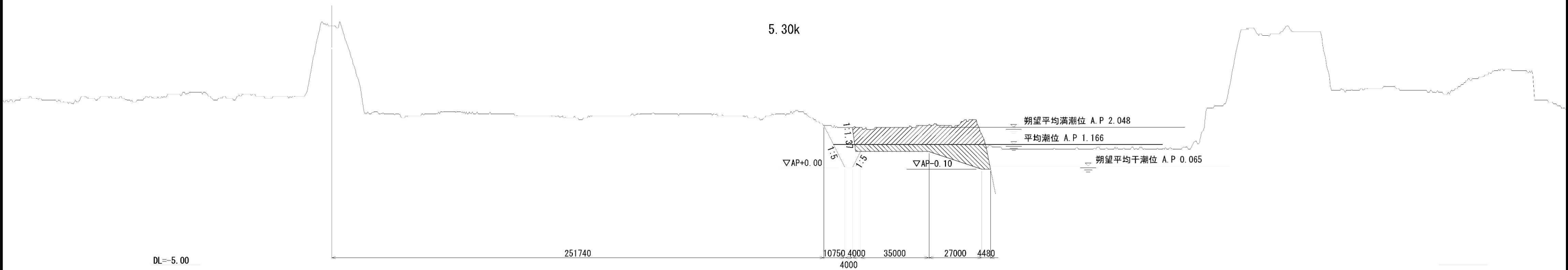
測 站	單 距 離	追 加 距 離	計 画 高 水 位	現 況 地 盤 高	計 画 掘 削 高
4.40	0.000	0.000	5.056		0.000
4.45	50.000	50.000			0.000
4.50	50.000	100.000			0.000
4.55	50.000	150.000			0.000
4.60	50.000	200.000	5.156		-0.100
4.65	50.000	250.000			-0.100
4.70	50.000	300.000			-0.100
4.75	50.000	350.000			-0.100
4.80	50.000	400.000	5.245		-0.100
4.85	50.000	450.000			-0.100
4.90	50.000	500.000			-0.100
4.95	50.000	550.000			-0.100
5.00	50.000	600.000	5.338		-0.100
5.05	50.000	650.000			-0.100
5.10	50.000	700.000			-0.100
5.15	50.000	750.000			-0.100
5.20	50.000	800.000	5.429		-0.100
5.20 +30.00	30.000	830.000		2.145	-0.100
5.25	20.000	850.000		2.134	-0.100
5.30	50.000	900.000		2.734	-0.100
5.35	50.000	950.000		2.913	-0.100
5.35 +15.00	15.000	965.000		2.913	-0.100
5.40	35.000	1000.000	5.516		-0.100
5.45	50.000	1050.000			-3.200
5.50	50.000	1100.000			-3.200
5.55	50.000	1150.000			-3.200
5.60	50.000	1200.000	5.607		-3.200
5.65	50.000	1250.000			-3.200
5.70	50.000	1300.000			-3.200
5.75	50.000	1350.000			-3.200
5.80	50.000	1400.000	5.688		-3.200

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	縦断図		
縮尺	SV=1:100 SH=1:2000	図面番号	7 の 3
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名	いであ株式会社		
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

標準横断面図

V=1: 100
H=1:1000

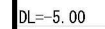
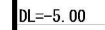
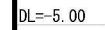


名称	規格	記号
掘削	平均潮位以上	
	平均潮位以下	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	標準横断面図		
縮 尺	V=1: 100 H=1:1000	図面番号	7 の 4
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名	いであ株式会社		
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

V=1: 100
H=1:1000



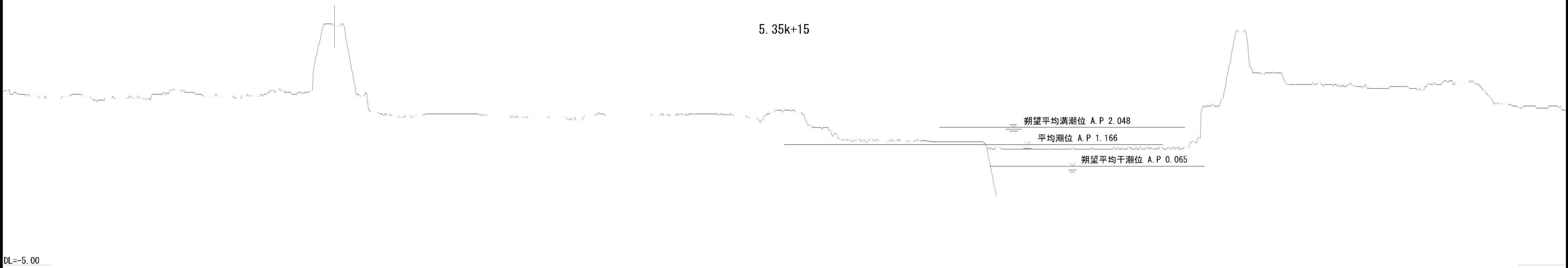
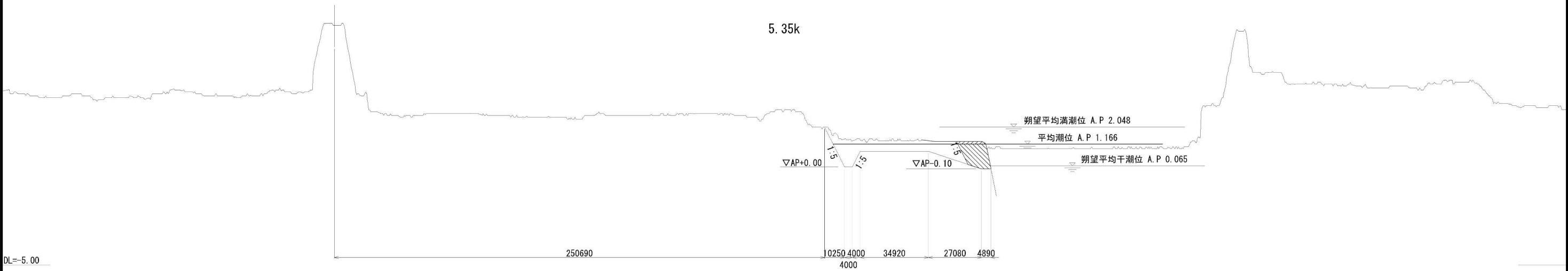
掘削	平均潮位以上	
	平均潮位以下	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7多摩川東六郷河河道掘削工事		
図面名	横断図(1)		
縮尺	Y=1:100 H=1:1000	図面番号	7 の 5
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名	いであ株式会社		
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

横断図(2)

V=1: 100
H=1: 1000



名称	規格	記号
掘削	平均潮位以上	
	平均潮位以下	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	横断図(2)		
縮尺	V=1: 100 H=1: 1000	図面番号	7 の 6
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名	いであ株式会社		
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

防護柵詳細図

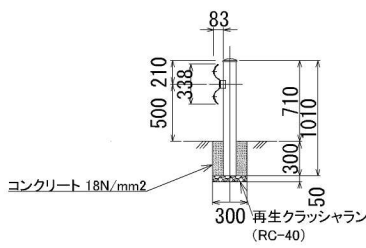
平面図 S=1:500



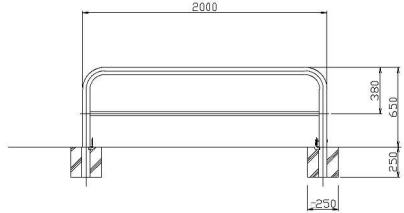
ガードレール
Gr-C-3B S=1:20

車止め撤去 S=1:15

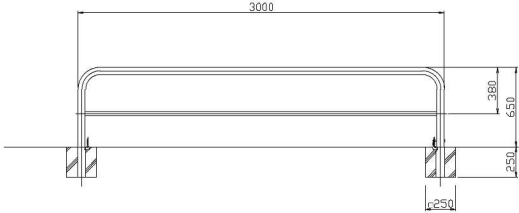
断面図



L=2.0m



L=3.0m

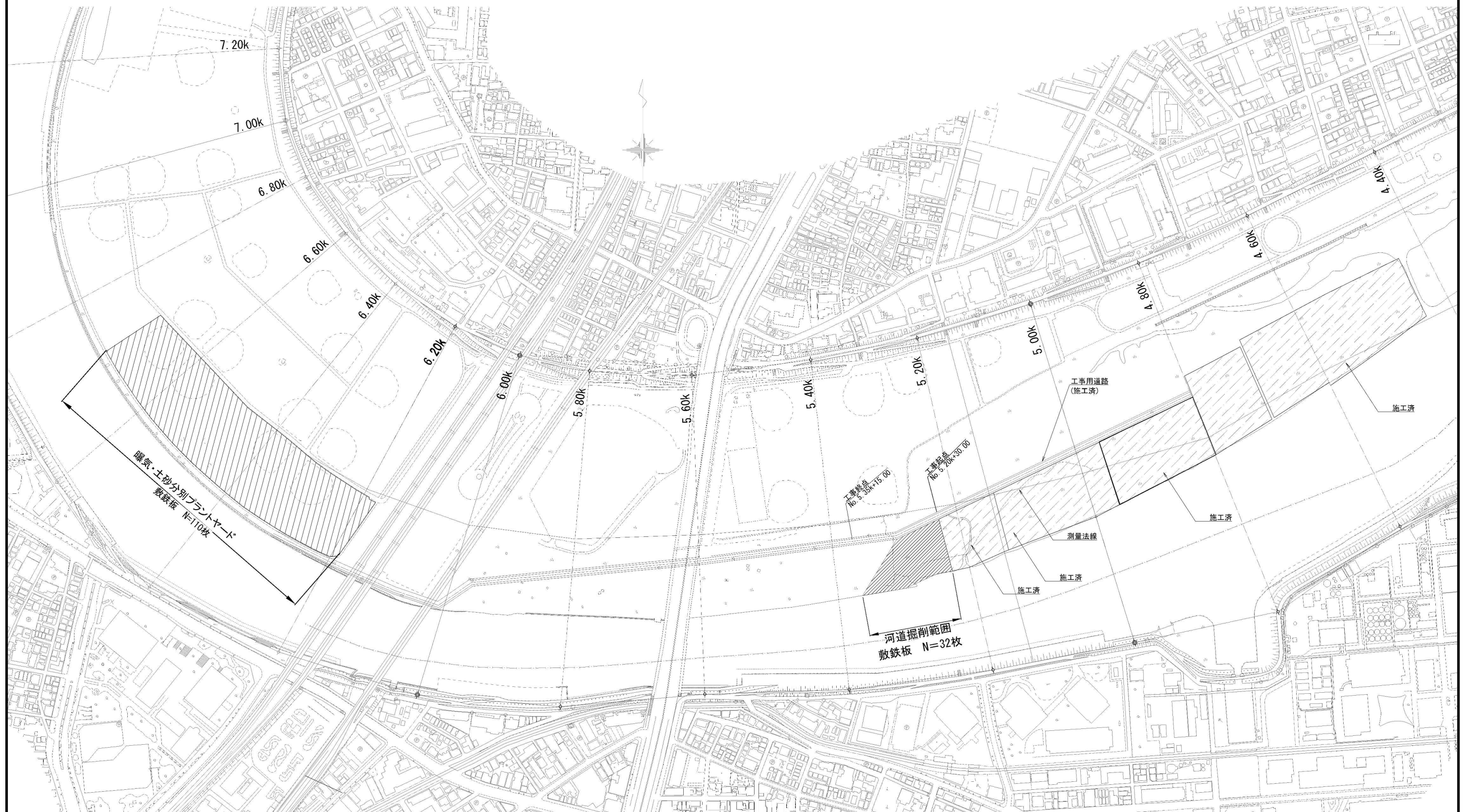


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7 多摩川東六郷河道掘削工事			
図面名	防護柵詳細図			
縮尺	図示	図面番号	7	の 7
年月日	令和 8 年 1 月 日			
設計会社名				
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所			

仮設平面図(1)

S=1:2500



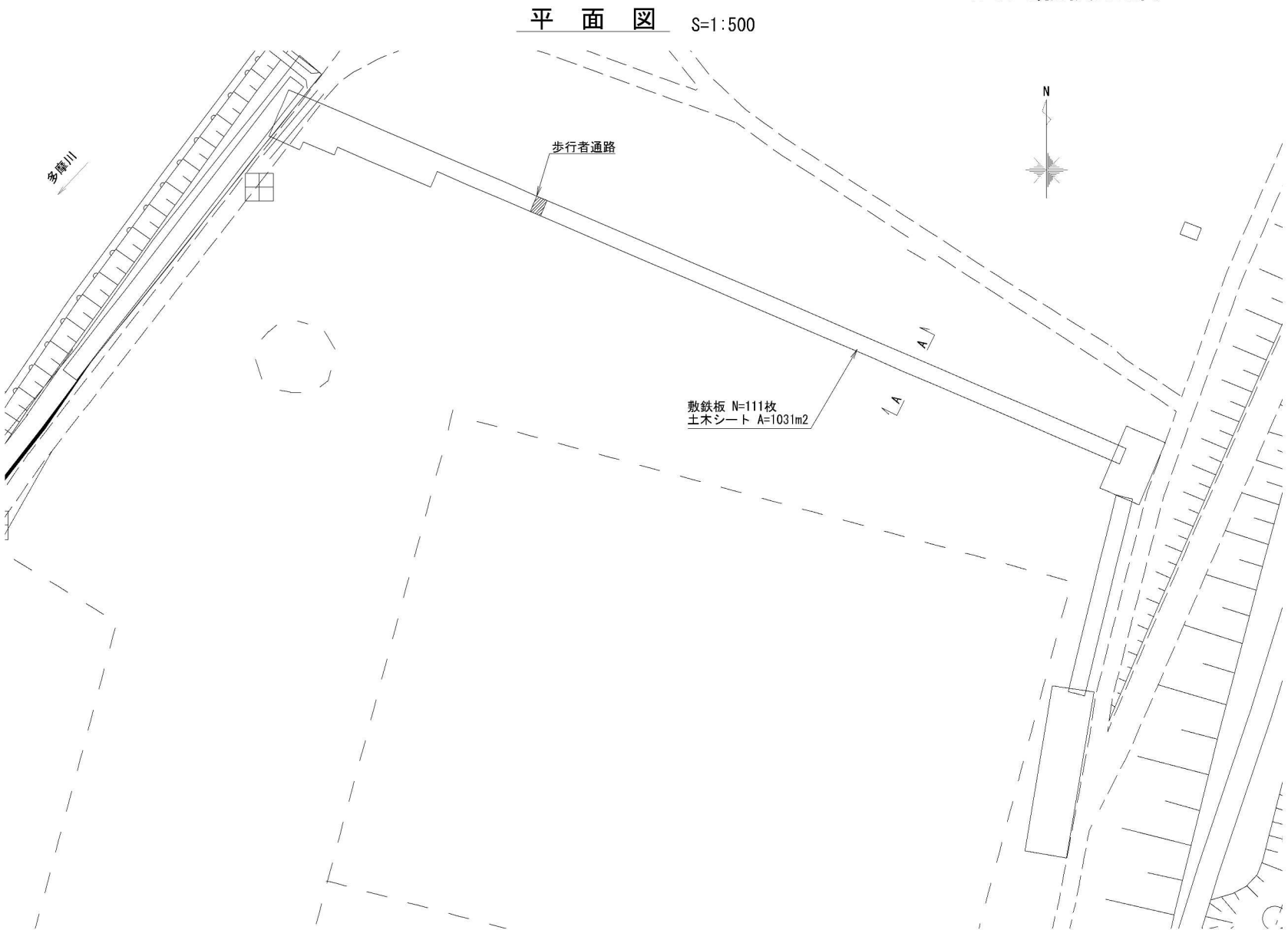
凡例	
	:掘削範囲
	:施工済

参考図

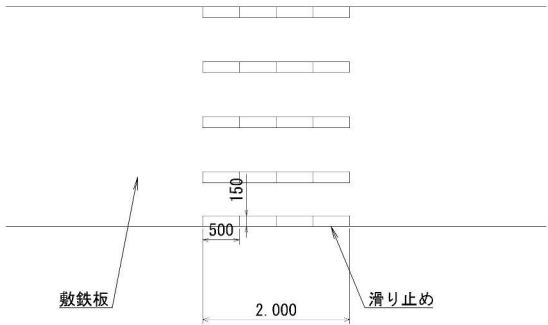
工事名	R7多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	仮設平面図(1)		
縮尺	1:2000	図面番号	参の1
年月日	令和8年1月日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

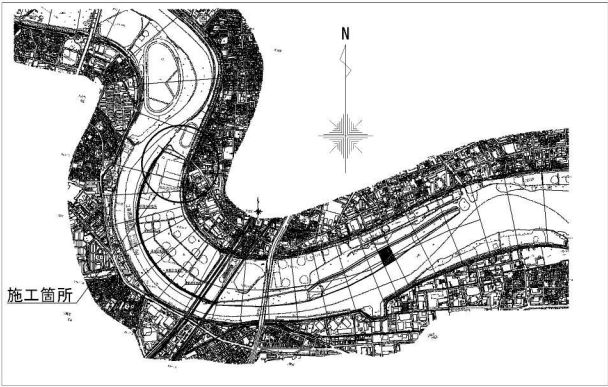
仮設平面図(2)
(河川敷横断部)



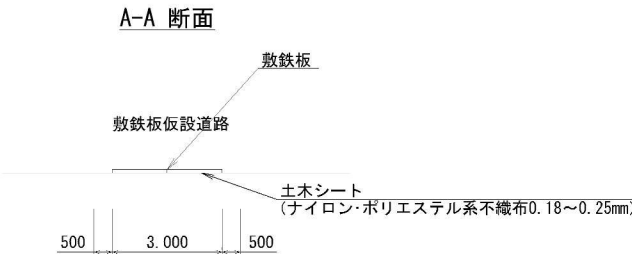
歩行者通路詳細図 S=1:100



位置図 S=1:25000



河川敷横断通路断面図 S=1:100



参考図

工事名	R7 多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	仮設平面図(2)		
縮尺	図示	図面番号	参 ー 2
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		

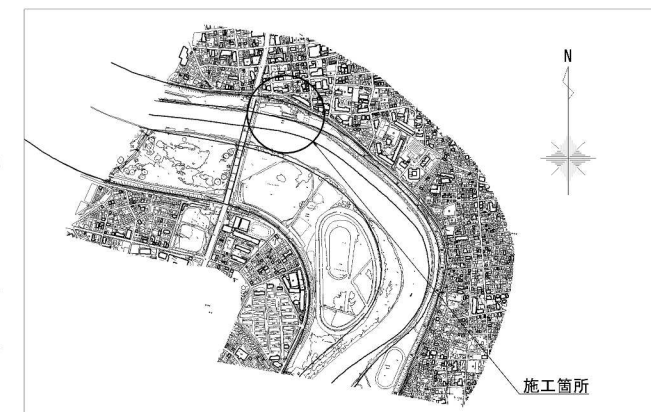
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

仮設平面図(3)
(多摩川二丁目緊急船着場)

平面図 S=1:250



位置図 S=1:15000



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

参考図

工事名	R 7 多摩川東六郷河道掘削工事		
図面名	仮設平面図(3)		
縮尺	図示	図面番号	参 - 3
年月日	令和 8 年 1 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 京浜河川事務所		